

2017年度の山口大学の国際交流活動



2018年3月
山口大学国際戦略室

目次

はじめに.....	1
第1章 2017年度の国際戦略室の活動.....	3
1. 国際戦略室.....	3
2. 山口大学 HP「トピックス」で見る 2017年度の本学の国際連携活動.....	4
3. 国際交流協定.....	22
(1) 2017年度の国際交流協定の締結等.....	22
(2) 大学等間国際交流協定.....	23
(3) 部局等間国際交流協定.....	27
4. 海外拠点.....	30
5. 本部への海外からの来訪者.....	31
6. 本学学長の海外訪問.....	33
7. 国際会議, 国際シンポジウムの開催.....	34
8. 海外協定校との連携プロジェクトの推進.....	34
9. 政府開発援助 (ODA) との連携.....	36
10. 研究者の交流.....	37
11. 職員の研修.....	37
12. 学内の国際化推進体制の整備.....	39
13. 海外同窓会活動.....	40
第2章 2017年度の留学生部門の活動.....	41
1. 山口大学 HP「トピックス」で見る 2017年度の留学生部門の活動.....	43
2. 留学促進のための体制整備.....	47
3. 留学促進のための広報活動について.....	47
4. 留学生センターにおける学生派遣及び受入について.....	48
第3章 2017年度の学術研究部門の国際交流活動.....	49
1. 独立行政法人日本学術振興会助成.....	49
(1) 二国間交流事業.....	49

①【大学院医学系研究科 中村教泰教授】	49
②【大学院創成科学研究科（理学系） 綱島亮准教授】	50
(2) 外国人特別研究員	50
①【大学院創成科学研究科（工学系） 兵動正幸特命教授】	50
②【大学院創成科学研究科（工学系） 小柴満美子准教授】	51
(3) 外国人招へい研究者	51
①【大学院創成科学研究科（理学系） 綱島亮准教授】	52
②【大学院創成科学研究科（工学系） 山本修一教授】	52
(4) 論文博士号取得希望者に対する支援事業	53
【大学院創成科学研究科（工学系） 小河原加久治教授】	53
(5) 研究拠点形成事業	53
①【大学院創成科学研究科（農学系） 山田守教授】	53
②【大学院創成科学研究科（工学系） 三浦房紀特命教授】	55
第4章 2017年度の各部局の国際交流活動	58

はじめに

山口大学は「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」を理念として、人間力とバイタリティーあふれる人材を輩出できる大学、教員と学生が共に育つ「共育できる大学」を目指しています。この「共育」には、大学と地域が連携してグローバル化の中で共に学び発展すること、留学生や研究者を迎え、送り出すことによって、それらの国々と日本が相互の理解を深め、協力し合って平和で持続性のある世界を目指して手を携えるという意味も含まれています。これらの認識に基づき、本学はグローバル化を総合的に推進するとともに、留学生を含む全ての大学人が、互いの歴史、文化、民族、言語、宗教などの違いを超えて、共感・共鳴・協奏できる「ダイバーシティ・キャンパス」の実現を目指しています。

山口大学は、大学グローバル化推進に際し、学長のリーダーシップが十分に発揮できる意思決定及び組織体制を構築するため、2016年6月に「国立大学法人山口大学における国際戦略に関する規則」を制定し、学長のリーダーシップのもと、国際戦略室は関連する学内外の組織とも連携を深めながら、大学の国際化について様々な議論を重ね、大学グローバル化に向けた活動を推進しております。2017年度は第3期中期目標・中期計画にもとづき、質の高い留学生の派遣・受入を促進するため、海外協定校との連携プロジェクトを推進するとともに、ホームページ、海外拠点等を活用した留学生受入の広報活動を実施いたしました。

本報告書では、第1章にて本学における国際化に向けた取り組みを2017年度の国際戦略室の活動をもとに取り纏め、留学生部門、学術研究部門にて実施された国際交流事業をそれぞれ第2章、第3章に掲載いたしました。また第4章には、各部局ごとの国際活動の取り組みを掲載しております。

この報告書により、学内のみならず本学に関係される多くの方々、大学を取り巻く地域の方々に、本学の国際化の状況について知っていただけたら幸いです。同時に、報告書をお読み頂いた方々から、多くの貴重な意見を頂くことができれば、本学の国際化推進に役立つものと期待しています。これからも大学内外の関係者の皆様にお知恵をお借りしながら、積極的に山口大学の国際化を推進してまいりますので、皆様方の力強いご支援をお願いいたします。

国際戦略室

2017年度の山口大学の国際交流活動



第1章 2017年度の国際戦略室の活動

1. 国際戦略室

(1) 国際戦略室の組織と役割

2016年5月30日に、本学における教育、研究及び社会連携活動のうち国際的な活動に係る戦略の企画、立案及び実施に向けた方策を決定するため、「国立大学法人山口大学における国際戦略に関する規則」を制定した。本規則により、本学の国際戦略に関しては学長が決定を行い、国際戦略に基づいた本学の教育研究の国際交流及び研究成果を基盤とした国際社会への貢献を推進するため、山口大学国際戦略室が置かれた。

国際戦略室は、国際連携担当副学長及び教職員を構成員とし、以下の業務を行う。

- (1) 本法人の国際連携に係る企画、立案及び実施に関すること。
- (2) 国際交流に関する情報の収集、整理及び提供に関すること。
- (3) 国際協力・国際貢献活動に関すること。
- (4) 国際交流協定に基づく活動の推進に関すること。
- (5) 海外に向けた本学の国際交流に係る情報の発信に関すること。
- (6) その他前条の目的を達成するために必要な事項

毎月1回構成員による国際戦略室会議を開催し、上記業務に関する事柄について協議及び情報共有を行っている。

また、国際戦略室の活動を支援する事務組織として、企画戦略部国際企画課が置かれ、国際戦略室と共に本学の国際化に関する企画立案及び実施を担っている。

2. 山口大学 HP「トピックス」で見る 2017 年度の本学の国際連携活動

○ 重点連携大学を選定しました

山口大学では、研究分野を主体とした国際連携活動を強化することにより大学の研究レベルの高度化を図ると共に、学術を通じた教育支援及び国際貢献をおこなうことを目的として、特に本学の研究力向上につながると期待できる海外の大学を重点連携大学に選定しました。選定大学との国際連携活動に対して大学として支援を行います。支援期間を5年と定め、3年後に中間評価を行います。また、5年間の支援期間終了後に事後評価を実施します。

大学・機関名	研究代表者	支援期間
南カリフォルニア研究所群（米国）	医学系研究科 中村 教泰教授	H29～33年度
ミシガン大学（米国）	医学系研究科 篠田 晃教授	H29～33年度
ウダヤナ大学（インドネシア）	創成科学研究科（工学） 清水 則一教授	H29～33年度
ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（英国）	創成科学研究科（工学） 上村 明男教授	H29～33年度
サラゴサ大学（スペイン）	創成科学研究科（工学） 熊切 泉 准教授	H29～33年度
梨花女子大学校（韓国）	創成科学研究科（工学） 進士 正人教授	H29～33年度
カセサート大学（タイ）	創成科学研究科（農学） 山田 守教授	H29～33年度
チュラロンコン大学（タイ）		H29～33年度
ワゲニンゲン大学（オランダ）	創成科学研究科（農学） 執行 正義教授	H29～33年度
山東大学（中国）	東アジア研究科 植村 高久教授 葛 崎偉教授	H29～33年度
マレーシア工科大学（マレーシア）	技術経営研究科 上西 研教授	H29～33年度
モスクワ大学（ロシア）	時間学研究所 藤澤 健太教授	H29～33年度

また、複数の重点連携大学が立地する国・地域の中から、重点拠点国として、タイ王国およびインドネシアを指定しました。重点拠点国に山口大学海外オフィスを置き、研究交流や学生の留学等の支援を行います。

○ Erasmus+プログラムによりシェヒル大学から研修生を受け入れました

シェヒル大学（トルコ）と本学間で実施している、EU（欧州連合）の国際教育プログラム Erasmus+（エラスムス・プラス）に基づき、5月15日（月）～19日（金）の一週間、シェヒル大学職員のイルクナー カプラン氏を受け入れました。

研修初日は、カプラン氏がシェヒル大学についての紹介を行い、本学の職員と英語による活発な意見交換が行われました。

また、別の日には吉田キャンパスを訪れ、富本幾文副学長補佐（国際連携担当）を表敬訪問し、お互いの大学について紹介

した後、キャンパス内の施設を見学しました。その他にも、英語で実施している講義や常盤キャンパスを見学し、留学生が本学で生活する際の環境について学びました。



本学工学部はシェヒル大学工学・自然科学部と2017年4月に学部間国際交流協定を締結しており、7月には工学・自然科学部長をお迎えする予定で、今後も両大学の交流がますます発展していくことが期待されます。



○ 本学理学部が台湾大学と学部間国際交流協定を締結しました

5月22日(月)、本学理学部と台湾大学理学院との間で学部間国際交流協定の締結がなされました。台湾大学は、台北市に位置する台湾一の総合大学であり、台湾内はもとより、海外においても各方面に優秀な人材を多数輩出しています。締結式は、本学事務局1号館3階の応接室で行われ、理学部からは、松野浩嗣理学部長、増本誠教育研究評議会評議員(教授)をはじめ5名が、台湾大学からは、リュウ シュ ゾン理学院長、ルオ チン ファ前理学院長およびファン ウェン ジン理学院事務室副理の3名が出席し、終始和やかな雰囲気の中で執り行われました。

締結式終了後には、場所を理学部に移し、各学部相互の概要説明並びに化学分野および地球科学分野に関する研究情報交換会が行われました。今回の協定締結を機に教員間の研究交流や学生交流が促進され、新しい学問的な成果の醸成につながることを期待されます。



中国嘉興学院から李月順国際交流処副処長らが来学しました

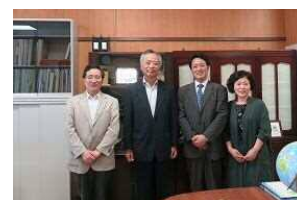


5月25日(木)、中国の嘉興学院から李月順国際交流処副処長と郭永恩外国語学院副院長が三浦房紀副学長(国際連携担当)を表敬訪問し、将来本学と学生および研究者交流を行うことについて懇談を行いました。

嘉興学院は、中国上海市に隣接する嘉興市に位置する大学で、現在本学東アジア研究科修士3名が教職員として勤務しています。

懇談では嘉興学院側から、山口大学のある山口市は住みやすく、勉学に集中できる静かな環境で、かつ留学生に親切に接してくれる人が多く存在する温かい環境であるとの感想が述べられ、本学卒業生である3人の教員を中心に、教員同士の交流から本学との連携を進めていきたい旨提案が行われました。

三浦副学長からは、本学の国際交流に関して、本学卒業後の元留学生との連携強化や、留学生の受入や派遣時の国際交流リスクマネジメント強化に取り組んでいるなどの近況について説明がなされ、両大学間で活発な意見交換が行われました。



今回の来学を機に嘉興学院との関係が進展し、今後本学との学生および研究者交流等に繋がることを期待されます。

○ Erasmus+プログラムにより新リスボン大学から教職員を受け入れました

新リスボン大学（ポルトガル）と本学間で実施している、EU（欧州連合）の国際教育プログラム Erasmus+（エラスムス・プラス）に基づき、5月29日（月）～6月2日（金）の一週間、新リスボン大学教員のペドロ カブラル氏と職員のパウロ コシュタ氏を受け入れました。

初日は、進士正人工学部長を表敬訪問し、Erasmus+プログラムや両大学についての紹介がなされ、プログラムに基づく今後の交流について協議しました。

別の日には吉田キャンパスを訪れ、富本幾文副学長補佐（国際連携担当）を表敬訪問し、お互いの大学について紹介した後、キャンパス内の施設を見学しました。

また、ペドロ氏は創成科学研究科電気電子情報系専攻情報システム工学コースの博士前期課程学生を対象に「Geographical Information Science and Technology: Applications to coastal hazards」という題で英語による講義を行い、多くの学生が熱心に耳を傾けました。

その他にも、工学部教職員や、本学の大学生・大学院生、海外からの留学生らと意見交換会を行ったり、英語で行っている講義を見学したりと充実した研修となりました。

山口大学工学部は新リスボン大学からこれまでも Erasmus+に基づいて教職員を受け入れており、今回で計5名の受入となりました。更に、7月にも職員を受け入れる予定で、今後も両大学のますますの交流が期待されます。



○ ロシア・クラスノダール地方団体「カイゼン」の代表者他3名が来学しました

6月6日（火）、ロシア・クラスノダール地方団体「カイゼン」から、アンドレーエワ・オーリガ所長、ヴォローシナ・エカテリーナ副所長、キルサノーヴァ・マリア財務担当の学長表敬訪問がありました。

カイゼンは、本年4月、山口県と友好協力に関する協定を締結したクラスノダール地方の日露交流事業等の実施団体であり、この度の訪問は山口県の招へいにより県内の関係機関等と今後の交流について意見交換することを目的としています。

表敬訪問では、アンドレーエワ・オーリガ所長が今般の訪問の感想を述べるとともに、岡正朗学長へあてたクバン農業大学学長からの親書が手渡され、農学や獣医学面での交流を進めて行きたいとの抱負が述べられました。



その後、懇談会が行われ、本学農学部、共同獣医学部の研究内容や、工学部のロボット研究について紹介した後、両者で意見交換を行いました。



今回の訪問をきっかけに、本学とロシア・クラスノダール地方のクバン農業大学との連携がスタートし、活発な交流に発展していくことが期待されます。

○ ベトナムからハノイキッズクラブが来学しました

6月13日（火）、ベトナムのハノイキッズクラブ25名が本学を訪問し、岡正朗学長を表敬訪問しました。

ハノイキッズクラブとは、本学連合獣医学研究科卒業生 Bui Thi To Nga 氏がベトナムに帰国後、ハノイで設立したもので、現在クラブの子どもたちは国際交流ひらかわの風の会（山口市）とスカイプを利用して日本語学習を行っています。この度クラブの子どもたちが親善交流のため来県することになり、キッズクラブの子どもたちに将来山口大学への留学を目指してほしいという願いから、本学への訪問が実現しました。



表敬訪問後は、本学公認サークル「よさこいやっさん」のメンバーからよさこい指導を受け、元気いっぱい初めてのよさこいを踊りました。



その後の懇親会では、本学教職員やベトナム人卒業生・留学生とその子どもたちも多数加わり、ハノイキッズクラブを歓迎しました。キッズクラブの子どもたちによるベトナムの伝統楽器を使った演奏や、本学ベトナム人留学生による歌や踊りのパフォーマンスが披露され、懇親会は大いに盛り上がり

ました。懇親会の最後には、子どもたち一人一人に岡学長から絵本やヤマミィグッズのプレゼントが手渡され、子どもたちは大変喜んでいました。

この度の来学で、ハノイキッズクラブの子どもたちが本学留学に向け、より一層日本語学習に取り組み、山口大学で再会できる日を心待ちにしたいと思います。

また、同懇親会に引き続き、山口大学ベトナム同窓会会合が開催され、在学学生も交えて、本学卒業後も山口大学とのつながりを持ち続けることを約束しました。今後卒業生同士や本学教員との交流が、日本とベトナムの両国で活発に行われることが期待されます。本学も、留学後の卒業生との連携継続やバックアップ体制強化に努めてまいります。



○ Erasmus+プログラムによりシェヒル大学、新リスボン大学から教職員を受け入れました

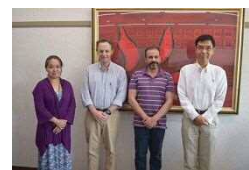
EU（欧州連合）の国際教育プログラム Erasmus+（エラスムス・プラス）に基づき、7月3日（月）～7月7日（金）の一週間、シェヒル大学工学・自然科学部の学部長 Ensar Gül

氏，新リスボン大学職員の Raquel Martinho 氏，Célia Janota 氏，Carlotta Pisano 氏を受け入れました。

初日は，進士正人工学部長を表敬訪問し，両大学の紹介や今後の交流について協議しました。



別の日には吉田キャンパスを訪れ，三浦房紀副学長（国際連携担当）を表敬訪問し，お互いの大学について紹介を行いました。続いて，創成科学研究科（農学系）の執行正義教授から LED 照明を用いた栽培実験について実際に植物工場で栽培中の様子を見学しながら説明を受け，その後総合図書館を訪れました。



また，Ensar Gül 氏は創成科学研究科電気電子情報系専攻の知能情報メディア工学コース及び情報システム工学コースの博士前期課程学生を対象に専門英語特別演習の一環として，「Design Patterns」という題目で英語による講義を行い，多くの学生が熱心に耳を傾けました。

その他にも，工学部教職員と意見交換会を行ったり，日本文化体験として留学生と一緒に書道や茶道を体験したりと充実した研修となりました。



今後も Erasmus+に基づいて学生や教職員の派遣と受入による相互交流を行うことで，教育研究の国際化を促進します。

○ マラ工科大学（マレーシア）並びにダナン科学技術大学（ベトナム）と国際交流協定を締結しました



7月5日（水），本学において，マラ工科大学並びにダナン科学技術大学と各々の間に国際交流協定の締結がなされました。

締結式に先立ち，マラ工科大学のノルアザム マツキ ビジネススクール長及びイブラヒム ハジジャ講師並びにダナン科学技術大学のレ ティ キム ワン副学長による岡 正朗学長への表敬訪問があり，学長室において上西研学長特命補佐（大学院技術経営研究科（MOT）附属アジアイノベーションセンター長），MOT のグエン・フー・フック准教授の陪席により，各大学の紹介や協定締結に伴う今後の交流の進展について意見交換が行われました。その後会場を学長応接室に移し，終始和やかな雰囲気の中で締結式が執り行われました。

マラ工科大学は，マレーシア最大の理工系を中心とする国立の総合大学であり，マレーシア各地に点在するキャンパスには16万を超える学生と2万名近い教職員を擁しています。

ダナン科学技術大学はベトナム第3の都市ダナンに位置し，技術系国立大学として国内有数の大学です。



本学 MOT は，平成 27 年度から機能強化プロジェクト「アジアイノベーションプロデューサーの育成」によりアジア圏における技術経営教育の普及と質の向上に取り組んでおり，この度協定を締結した両大学は，平成 28 年度に設立した ASEAN を中心とするアジア各国

の有力大学とのプラットフォーム「アジア MOT コンソーシアム」の構成校であり、毎年国内外で開催している国際シンポジウム「International Symposium for Asian MOT Education (ISAME)」等を通じて交流を深めてきました。

協定締結の翌 6 日（木）には、本学常盤キャンパスにおいて、ISAME2017 in Ube が開催され、両大学を含む「アジア MOT コンソーシアム」の構成校が一堂に介しました。

また 7 日（金）には、アジア MOT コンソーシアムの理事会が開催され、遠隔講義システムを活用した MOT 科目のコースシェアリングやコードシェアリングの整備に向け、各大学と検討を開始するための契約書（Letter of Intent）の調印式が行われました。



○ 大学院技術経営研究科主催の国際シンポジウム「International Symposium on Asian MOT Education 2017 in Ube」が開催されました

7 月 6 日（木）、常盤キャンパス D 講義棟 11 番教室（宇部市）において、大学院技術経営研究科(MOT)主催の国際シンポジウム「International Symposium on Asian MOT Education (ISAME) 2017 in Ube」が開催され、MOT や大学院創成科学研究科の学生及び同時期に来日していたマレーシア日本国際工科院（MJIIT）研修生 46 名をはじめ、教職員等 560 名余りが出席しました。



MOT は、平成 27 年度から機能強化プロジェクト「アジアイノベーションプロデューサーの育成」によりアジアにおける技術経営教育の普及と質の向上に取り組んでおり、国内外で毎年 2 回国際シンポジウム「ISAME」を主催しています。

第 5 回となる ISAME 2017 in Ube では、上西 研 MOT 附属アジアイノベーションセンター長及び進士 正人 大学院創成科学研究科長からの開会挨拶に続き、文部科学省高等教育局専門教育課専門職大学院室長 大月 光康氏を講師に迎え、「大学における日本の専門職教育の状況について～経営系・工学系教育の現状と改革～」と題した基調講演が行われました。

また、バンドン工科大学（インドネシア）、ダナン科学技術大学（ベトナム）、マラ工科大学（マレーシア）、チェンマイ大学（タイ）の代表から「アジア各国の産業政策と研究開発」をテーマとした特別公演が行われました。

最後に福代 和宏 MOT 研究科長から参加者全員に対して謝辞が述べられ閉会となりました。

本シンポジウムは、アジア各国と知見を共有し、アジア標準となる技術経営教育の構築に資するとともに、アジアにおける技術経営教育の質の向上に繋がる良い機会となりました。また、本シンポジウム終了後、本学が中心となり改訂作業を行った「MOT コアカリキュラム 2016」について意見交換の場が設けられ、レビューが行われました。

MOT コアカリキュラムは、平成 21 年度に経営系専門職大学院協議会（MOT 協議会）加盟校により策定され、学習内容の標準として重要な役割を果たしてきましたが、社会・

経済・科学・技術の変化に対応するため、平成 28 年度「文部科学省先導的経営人材養成機能強化促進委託事業」の支援により、「経営系専門職大学院（MOT 分野）におけるコアカリキュラム策定に関する調査研究」の一環として、改訂を行ったものです。

○ ウダヤナ大学から丸本卓哉前学長に名誉博士の称号が授与されました
本学の協定校であるインドネシアのウダヤナ大学から、6月30日（金）、丸本卓哉前学長（平成18年～26年）に名誉博士の称号が授与されました。

これは、丸本前学長がウダヤナ大学と山口大学の協力関係構築に貢献するとともに、専門である土壌生化学の知見により、ウダヤナ大学、山口大学、多機能フィルター（株）と共同で、同国バリ島・バトゥール山の大噴火による荒廃地の緑化などに尽力していることが高く評価されたものです。

同大学からの名誉博士号の授与は、ノーベル化学賞を受賞したピーター・アグレ氏に続き、二人目となります。

ウダヤナ大学で開催された式典では、スワスティカ学長から丸本前学長に名誉博士の称号が授与され、挨拶の中でこれまでの功績が讃えられました。

また、丸本前学長による「日本とインドネシアにおける土壌浸食防止と裸地斜面緑化のための新技術による環境修復」と題した記念講演が行われ、さらに「緑化の技術を普及して世界中の環境修復にこれからも貢献して行きたい。」と述べられました。



○ 医学部保健学科がチェンマイ大学看護学部・医療科学学部との学生交流プログラムについて、学長への報告会を実施しました

9月12日（火）、学長室において、本学医学部保健学科およびチェンマイ大学医療科学部の学生が岡正朗学長に「平成29年度 山口大学医学部保健学科とチェンマイ大学看護学部・医療科学学部による学生交流プログラム」参加報告を行いました。



この度の実施が初となるこの交流プログラムは、2005年から行われている APAHL※の取り組みの一環として行われ、以下の目的で実施しています。

- ・本学看護学専攻の学生には、文化の違いに伴う医療・看護の事情について、日本との差や共通点などをタイで体験し学び、また本学検査技術科学専攻の学生には、タイ固有の疾患の詳細やその検査法、タイの検査システム等を体験し学ぶ。

- ・タイからの交換学生は、日本の医学教育や、日本の医療現場の見学や検査の実際、研究方法を学ぶ。
- ・これらの活動を通して、医療人としての自覚を促し、学生同士の交流や英語力のアップを目指す。
- ・本学の学生は、帰国後報告会を行い、他の学生に対しても啓発を行う。

山口大学からは看護学専攻の学部学生2名（8月21日(月)から9月1日(金)までの12日間）、検査技術科学専攻の大学院生2名（8月31日(木)から9月9日(土)までの10日間）、および教員2名が参加しました。チェンマイ大学からは看護学部の教員と学生5名（7月16日(日)から23日(日)までの8日間）、医療科学学部の大学院生1名（8月1日(火)から9月30日(土)までの2か月間）が山口大学で交流や研究を行いました。

報告会では、教員、および参加学生から、チェンマイ大学との交流について動画や写真を交えた報告と歓談が行われました。学長からは国際交流の大切さについてお話しがあり、これからも推進してゆくように激励がなされました。



※AP AHL (Asia Pacific Alliance of Health Leaders, 通称:エイパル) とは、チェンマイ大学・マヒドール大学(タイ)、ニューイングランド大学(オーストラリア)、梨花女子大学(韓国)及び山口大学の5大学による、看護・健康科学領域の学生の専門的能力を伸ばし、将来、国際的に活躍できるようリーダーを育成することを目的とした組織であり、輪番でフォーラムを開催しています。

○ 岡正朗学長らが山東大学を訪問しました

10月17日(火)、18日(水)に、中国の山東大学へ岡正朗学長、福田隆眞理事・副学長(教育学生担当)、葛崎偉大学院東アジア研究科長らが訪問しました。

山東大学は、今から34年前の1983年に本学が初めて交流協定を締結した海外の大学です。17日(火)は昨年9月に新しく開所された山東大学の「青島キャンパス」を視察し、張永兵(Zhang Yongbing)副学長を表敬訪問しました。張副学長からは、今後の目標として、この青島キャンパスを国際交流の基地とし、世界中から先進的な技術を持つ人材を集め、2万人の学生が学ぶキャンパスを作っていくとの抱負が述べられました。18日(水)には、今年7月に山東大学の新学長に就任された樊麗明(Fan Liming)学長を表敬訪問して、今後の交流発展に関する協議を行い、両大学間の国際交流協定書等の調印式を行った上で、山東大学と山口大学の2つの「山大」の絆により、学術交流50周年に向けて共に歩んでいくことを確認しました。同日夜には、山口大学海外同窓会中国山東支部親睦会が開催され、幅広い世代の同窓生が一堂に集まり、山口大学での留学、研究時代の話に花を咲かせました。親睦会には山東大学に交換留学中の本学学生も出席し、山口大学同窓会員との交流を深めました。



山東大学は中国山東省に位置する国立大学で、済南市、青島市、威海市に広大なキャンパスを持つ中国を代表する総合大学です。協定締結から30年以上にわたり、山東大学と山口大学は本日まで短期・長期の学生交流、研究者交流、職員研修の実施等多種多様な交流を継続してきました。今年5月には山東大学を本学の「重点連携大学」として選定し、本学東アジア研究科の植村高久教授、葛教授と山東大学アジア太平洋研究所長の楊魯慧(Yang Luhui)教授を中心に、東亜社会システム科学に関する共同研究を進めています。この重点連携大学事業を中心に、学生交流はもちろん研究者交流においても山東大学と密なる交流を推進します。

山口大学は、今後も海外協定校との連携を大切に、お互いを高め合いながら共に発展してまいります。



○ 韓国・忠北大学校の工学部長らが来学しました



10月30日(月)～11月1日(水)の3日間、本学の協定校である韓国の忠北大学校から、Jai-Hak Park 工学部長をはじめ4名の教員が来学しました。

31日(火)には、常盤キャンパスにおいて韓国・忠北大学校との第4回合同セミナーが開催され、進士正人工学部長、Park 学部長からの挨拶の後、両大学の研究者がそれぞれの研究分野について発表があり、活発な情報交換が行われました。



次に、吉田キャンパスへ移動し、岡正朗学長を表敬訪問した後、岡学長の案内で大学会館に飾られている日本画家 馬場良治氏から寄贈された絵画を鑑賞し、その後、埋蔵文化財資料館や総合図書館を見学しました。

今回の来学を機に忠北大学校との連携が深まり、学生及び研究者交流等のさらなる進展につながることを期待しています。



○ サラゴサ大学及び新リスボン大学と国際共同シンポジウムを開催しました

第4回山口大学・サラゴサ大学（スペイン）・新リスボン大学（ポルトガル）国際共同シンポジウムが10月19日（木）、20日（金）の2日間、サラゴサ大学において開催されました。

本シンポジウムは、本学の研究核形成のため平成20～27年度時限設置された理工学研究科附属安全環境研究センターにおける研究者交流（宮本文穂名誉教授、喜多英敏名誉教授らの研究グループ）から発足し、平成25年度以降3大学持ち回りで開催しているものです。

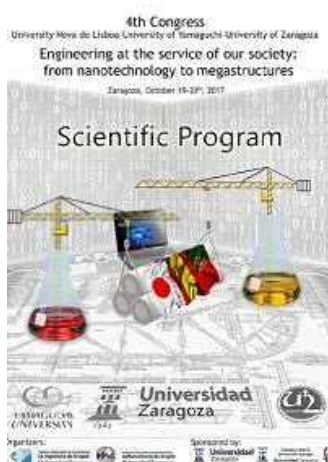
第1回は、サラゴサ大学において平成25年11月26日及び新リスボン大学において平成25年11月29日、第2回は、山口大学において平成26年11月27日～29日、第3回は、新リスボン大学において平成28年10月26日、27日に開催されました。

また、両大学とは国際交流協定を締結し、本学工学部（大学院）学生の派遣を実施しており、今年度は大学院創成科学研究科化学系専攻から5名の学生がサラゴサ大学の研究室に派遣され、研修が行われました。さらに、両大学とはEUのERASMUS+プログラムにおける教職員・学生の相互交流も開始しています。

今回のシンポジウムは、国際連携の強化と、分野の融合を目指しており、その趣旨はシンポジウム案内のイラストにも表現されています。（掲載写真「シンポジウム案内」参照）

シンポジウムは新リスボン大学副学長(Vice Rector, Professor Valter Lucio)と、サラゴサ大学付属アラゴン州工学研究所所長(Prof. Ignacio GARCES)による開会挨拶により開幕し、環境化学・化学工学、社会建設工学、情報工学の分野から、16件の口頭発表と、学生による17件のポスター発表が行われました。学生からの質問も含め、活発な質疑討論が行われました。開催期間中に2件の取材があり、ラジオ放送や新聞で、本シンポジウムが紹介されました。

なお、次回シンポジウムは平成31年3月に本学での開催が予定されています。



○ 大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事が来学されました

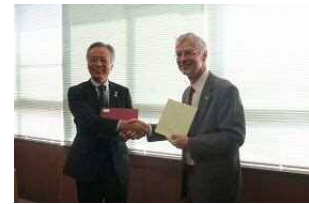
11月10日（金）、ヴェルナー・ケーラー大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事が吉田キャンパスを訪問し、三浦房紀副学長（国際連携担当）、ヒンターエーダー・エムデ・フランツ人文学部教授、レール・マルク国際総合科学部教授らと懇談を行いました。



冒頭、三浦副学長からケーラー総領事に対して歓迎の意が表明され、ケーラー総領事からは本学を訪問する機会に恵まれたことに感謝の意が示されました。懇談では、本学側からドイツの大学との交流状況についての説明を行うとともに、2015年4月に設置された国際総合科学部についての紹介も行いました。三浦副学長

からは、自身の海外経験をもとに、若いうちに日本と外国との違いを体験することは非常に大切であるとの考えが述べられました。総領事からは、ドイツ留学は語学を学ぶだけでなく、視野を広げ他国の文化や歴史に触れるよい機会であるため、学生に勧めてほしい旨伝えられました。さらに、同総領事からは、近年の若者の内向き傾向に対する本学における取り組みについて質問がなされ、これに対し、レール教授が本学では国際総合科学部で1年間の交換留学制度を設け、多くの学生が海外に留学していることを説明するなど、活発な意見交換が行われました。

今後、山口大学とドイツの交流がさらに発展し、本学で学ぶドイツ人留学生の増加のみならず、ドイツで学ぶ日本人学生が増えることが期待されます。



○ タイ帰国研究者・留学生等交流会を開催しました

11月18日（土）、タイのバンコク市内でタイ帰国研究者・留学生等交流会が開催されました。当日は49名の参加があり、交流会は大いに盛り上がりました。本学からは、三浦房紀副学長（国際連携担当）他9名の教職員が出席し、元留学生・研究者との再会を果たし、山口大学での思い出話に花を咲かせました。本交流会には、現在タイの本学協定校に交換留学中の国際総合科学部の学生も出席し、出席者との親睦を深めました。



交流会開催に先立ち、当日まで中心となって企画運営を進められたカセサート大学ノッポン ラートワッタナサクル助教から、この交流会を起点に山口大学海外同窓会タイ支部を新たに設立し、卒業後も本学及びタイ人同窓生との関わりを持ち続けていきたいと

の挨拶がありました。

交流会冒頭では、岡正朗学長からのビデオメッセージが上映されました。岡学長からは、タイを本学にとっての重点拠点国として指定し、種々の取組みによりタイの大学等との国際連携活動を推進しているといった本学のタイとの連携に関する最新の取組みが披露されました。また、山口大学帰国留学生・研究者の皆様は、今後本学とタイの大学等との架け橋になって欲しいとのメッセージが贈られました。



三浦副学長（国際連携担当）からは、過去10年で長期・短期留学を合わせると100名を超えるタイ人留学生を受け入れてきたことなど、本学とタイとの交流状況が語られ、本交流会に山口大学から出席した教員それぞれの紹介も交えて挨拶がありました。

カセサート大学ガンジャナ テーラグール准教授からは、研究滞在了山口大学での思い出が情景を彷彿させるエピソードと共に語られた後、今後タイと日本の研究連携促進のためには、お互いの大学で学んだ卒業生や研究者の強い結びつきが不可欠であるという強いメッセージが出席者に呼びかけられました。



大学院創成科学研究科農学系学域の山田守教授からは、本学農学分野が中心となって実施してきた JSPS 研究拠点形成事業の実績により、これまで何人ものタイ人学位取得学生を輩出し、また延べ 1000 人以上のタイ人研究者と連携を行ってきた実績が披露され、引き続き本学との研究連携のために協力してほしい旨参加者に依頼が行われました。

交流会の最後には、来場の皆様から将来本学で学ぶ未来のタイ人留学生の支援ために、多くの寄付金が寄せられ、遠くない将来にこの交流会が再び開催されることを参加者同士が確認し閉会となりました。今回の交流会は、準備や当日運営に多くの元留学生が参画し、心温まるもてなしをいただきました。また山口大学教員と元留学生の再会の懇談では本学大学院への進学についての希望が表明されるなど、実り多い会合となりました。

本学はこれからも帰国研究者・留学生とのつながりを大切にし、海外との国際連携活動を活発に行ってまいります。



○ 山東大学から SD 研修生 2 名を受け入れました

11 月 27 日（月）から 12 月 1 日（金）までの 5 日間、本学協定校である山東大学（中国）から SD（スタッフ・ディベロップメント）研修として、山東大学財務部副部長の艾量（AI Liang）氏、情報サービスセンター課長の劉洋（LIU Yang）氏を受け入れました。

1983 年に本学が初めて国際交流協定を締結した山東大学とは、交流の一環として、年 1 回相互に職員を派遣する研修制度が 2008 年より継続して実施されています。この研修は、相手大学の管理運営方法等を学び比較することで、所属大学の管理運営における課題の把握や業務の改善に役立てることを目的としています。

今回の研修は財務課と情報企画課で実施し、財務会計システムや補助金、各種システムのセキュリティ対策等のインタビューが行われた上で、相互に情報交換が行われました。併せて、過去に SD 研修生として山東大学を訪問した本学職員との意見交換会も実施し、研修当時を振り返りながら活発な意見交換が行われました。

また、山東大学が位置する山東省と山口県が、1979 年に友好協定を締結したことを契機に、県内の各自治体が相互に友好協定を締結していることから、学外研修として山口県庁および山口市役所を訪問し、各機関職員との意見交換も実施されました。

今回が初めての日本訪問であった2名の研修生からは、自然豊かな山口大学で有意義な研修を受けることができ、今後の職務に役立てることはもちろん、これからも継続して盛んな交流を行ってきたいとの感想が述べられました。

山口大学はこれからも山東大学と連携して、職員の職務遂行能力の向上と両大学の交流促進のためSD研修を実施してまいります。



○ “Next Generation Interdisciplinary Education : Across Humanities and Techs” をテーマとして日中韓学長ミーティングを開催しました

12月15日(金)、本学常盤キャンパスにおいて、“Next Generation Interdisciplinary Education : Across Humanities and Techs” をテーマとした日中韓学長ミーティングを開



催しました。これは本学常盤キャンパスにて、12月15日(金)及び16日(土)に開催された「大学生創成工学デザイン競技会(CEDC)」及び「創成教育国際会議(ICIARE)」に合わせて開催されたものです。現在、大学にとって、産業構造や社会環境の急速な変化に対応できるイノベティブ人材を育成することは、喫緊の課題となっています。また工学教育に関しては、IoTの発達により、複数の学問分野を横断する新たな教育モデルを編成することが求められています。こうした背景のもと、学長ミーティングでは、本学岡正朗学長を筆頭に、群山大学校(韓国)から Euigyun Na 学長、重慶文理学院(中国)から Hongbin Xu 学長、九州工業大学から尾家祐二学長、仁済大学校(韓国)から Taegu Kim PRIME プロジェクト長、大連理工大学(中国)から Qingkai Han 教授の6名がプレゼンテーションを行いました。CEDC 及び ICIARE 参加学生及び教職員が多数聴講し、学長ミーティングは日中韓の大学関係者にとって、今後の大学教育を充実させるための非常に有意義な機会となりました。

山口大学は、これからも日本のみならず海外で活躍する人材育成のため、海外の大学と活発な情報交換を行ってまいります。



※各発表者のタイトルは以下のとおりです。

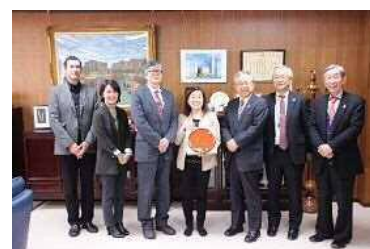
発表者	所属大学	プレゼンテーションタイトル
岡正朗学長	山口大学	What is Yamaguchi University?
Euigyun Na 学長	群山大学校(韓国)	Educational Innovation Programs in KNU
Hongbin Xu 学長	重慶文理学院(中国)	Constructing New Engineering while Integrating All Specialties --the Exploration and Practice of CUAS

尾家祐二学長	九州工業大学	Global and Collaborative Learning for Creating, Enhancing and Sharing Value
Taegu Kim PRIME プロジェクト長	仁済大学校 (韓国)	Inje University PRIME Project
Qingkai Han 教授	大連理工大学 (中国)	Cooperating Innovation Makes Successful Education for Innovative Talents

○ 在福岡アメリカ領事館首席領事が学長を表敬訪問、ダイバーシティに関する特別講演会が開催されました

12月12日(火)、ジョイ・ミチコ・サクライ在福岡アメリカ領事館首席領事による岡 正朗学長の表敬訪問がありました。

吉田キャンパス事務局において行われた懇談では、冒頭、岡学長からサクライ首席領事に対して歓迎の意が表明され、サクライ首席領事からは本学を訪問する機会に恵まれたことに感謝の意が示されました。懇談では、本学の留学に関連した取組や1年間の交換留学をカリキュラムに組み込んでいる国際総合科学部の紹介が行われ、今後の米国への留学について中心に、活発な意見交換が行われました。



また、当日は、総合図書館1階アカデミックフォレストにおいて、サクライ首席領事による特別講演会・セミナー「English + Study Abroad: Become a leader!ーアメリカで学ぶ! 多文化共生, グローバルリーダーとは??ー」が開催され、アクティビティを含むセミナーを学生・教職員およそ50名が受講しました。



本特別講演会・セミナーは、「第6回ダイバーシティ推進セミナー」及び「山口大学国際協力の里」特別講演会の共同開催として実施され、ダイバーシティ・キャンパスの実現とグローバルリーダーの育成を目的として開催されました。

講演では、在福岡アメリカ領事館の留学アドバイザーであるカグノ麻衣子氏よりアメリカへの留学の意義や実際に留学をするにあたっての支援制度や留学先の選択の方法等を紹介されました。続いてサクライ首席領事がリードして行われたアクティビティでは、仕事や留学の目的達成、昨今重要視されているワークライフバランスの実現には、完璧でなくともいいので最終目標を定め、それを達成するための習慣とルーティンを身に着け、必要な行動を整理し、実行することが大切であることがシチュエーションクイズを用いて紹介され、参加した聴講者は深い感銘を受けていました。

最後に、サクライ首席領事から自身の経験に基づき、自身が何をしたいかを見定め、それが大変な道であってもチャレンジしてほしいとのメッセージが聴講者に送られ、締めくくられました。

本学は「明日の山口大学ビジョン」において、ダイバーシティ・キャンパスの実現とグローバルリーダーの育成を目指しており、日本人学生の海外留学、外国人留学生の受入れ

を積極的に推進しています。また、学長のリーダーシップのもと、平成 29 年度に男女共同参画推進室と女性研究者支援室を整理統合する形でダイバーシティ推進室を設置し、構成員の性別、国籍や年齢などの多様性を積極的に高めるとともに、各自の個性と能力が最大限に発揮できるような労働環境の整備と充実をサポートする取組を進めているところです。

また、こうした活動をさらに推進するため、「国際協力の里」では、活動の一環としてダイバーシティ推進室と連携し、今後もグローバルリーダー育成のための学生・教職員の意識改革に資する取組を推進してまいります。

○ タイ・カセサート大学とジョイント・ディグリープログラム開設に関する協定を締結しました

2月1日（木）、カセサート大学創立 75 周年を記念したカセサート大学学長フォーラムが「変化の時代における高等教育」というテーマで開催されました。世界各国の学長、副学長ら数十名や教育・農業関係団体の代表者など約 700 名の出席があり、本学からは岡正朗学長、小林淳農学部長、山田守学長特命補佐らが出席しました。

カセサート大学協議会のクリサナポン・クリティカラ議長及びタイ教育省のウドム・カチントーン副大臣による開会挨拶に続き、岡学長を始めとするカセサート大学と関係の深い各国の学長らによる講演が行われ、フォーラムは盛会裏に幕を閉じました。



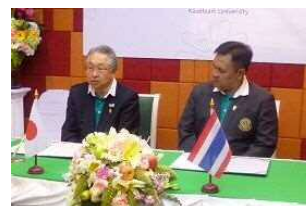
翌 2 月 2 日（金）、カセサート大学において、山口大学とカセサート大学間のジョイント・ディグリープログラム開設に関する協定の調印式が行われました。ジョイント・ディグリープログラムとは、我が国の大学と外国の大学とが共同して実施する教育プログラムで、連携する



大学間で開設された共同プログラムを修了した際に共同で単一の学位を授与するものです。本学は 2016 年 11 月にカセサート大学と、ジョイント・ディグリープログラム設置に向けた協力に関する大学間協定を締結しました。その後、本学大学院創成科学研究科農学系専攻とカセサート大学大学院熱帯農学専攻及び生命科学関連専攻による国際連携専攻設置に向けて検討を重ね、この度の協定締結となりました。

調印式では岡正朗学長から、調印できることは大変喜ばしいことであり、設置に向け引き続き両大学が協力し、このプログラムを通して相互の学生交流を更に発展させることを願っているとの挨拶がありました。

引き続き、岡学長とチョンラク・ワチャリンラット学長が協定書に署名し、本学から記念品が贈呈されました。ジョイント・ディグリープログラムは、本学大学院創成科学研究科に修士課程として設置を計画しており、2019 年 4 月の開設を目指しています。



本学とカセサート大学は、1998 年 7 月に大学間学術交流協定を締結し、2016 年 11 月にはカセサート大学のキャンパス内に山口大学バンコク国際連携オフィスを開設するなど、研究者や

学生の活発な交流を行ってきました。ジョイント・ディグリープログラムによる国際連携専攻設置により、更なる交流の深化が期待されます。

(※) 国際連携専攻設置については現在構想中であり、今後変更の可能性があります。



○ インドネシアー日本：獣医学研究における連携強化のためのシンポジウムを開催しました

2月28日（水）、山口大学と国際交流協定を締結しているインドネシア・ガジャマダ大学において、「インドネシアー日本：獣医学研究における連携強化のためのシンポジウム」が開催されました。

このシンポジウムは、インドネシア獣医系大学11校と本学大学院連合獣医学研究科を構成する3校（鳥取大学、山口大学、鹿児島大学）との教育・研究における交流を図るため、昨年に第1回をボゴール農科大学で開催し、今回は第2回目となります。

本学からは三浦房紀国際連携担当副学長、佐藤宏大学院連合獣医学研究科長のほか、鳥取・山口・鹿児島の3大学から教員・学生の合計20名が出席しました。

また、このシンポジウムは、今回よりインドネシア獣医師協議会ならびに獣医系大学学部長会議が認定する公式シンポジウムとなったこともあり、インドネシア国内からは11の獣医系大学の学部長をはじめ、教員、若手研究者、獣医師等多数の参加があり、両国合わせて総勢200名近くにのぼる大規模なものとなりました。

開会式では、ガジャマダ大学・シティ・イスリナ・オクタヴィア・サラシア獣医学部長の歓迎挨拶に続き、三浦副学長及びガジャマダ大学・国際連携担当副学長のパリプルナ・P・スガルダ教授のオープニングスピーチがあり、その後参加大学の紹介と研究発表として、31題の口頭発表と32題のポスター発表があり、活発な研究交流が行われました。

インドネシアは獣医系大学の新設と獣医学教育を担う教員の世代交代により、教員が不足しているという問題に直面していますが、このシンポジウムを通して、次世代を担う人材養成に向け、インドネシアと日本の獣医系大学が連携して取組んでいくことの重要性を再確認しました。

第1回のシンポジウム以降、教員の相互訪問、本研究科からの講師派遣、20名を超える学部生の短期研修受入れを行い、インドネシアー日本の間において着実に相互理解を深めてきていますが、獣医学高等教育や研究者交流によるこうした相互協力の進展は、獣医療や獣医学が抱えるアジアの地域的課題解決に向けた大きな一歩にもなります。

価値観を共有する友として、共に掲げた目標に向けて歩むことを誓った一日となりました。



○ 重点大学連携事業推進のため三浦房紀副学長，創成科学研究科の清水則一教授らがインドネシア・ウダヤナ大学を訪問しました

3月1日(木)，2日(金)に三浦房紀副学長（国際連携担当），創成科学研究科工学系学域の清水則一教授ら3名が大澤高浩准教授（ウダヤナ大学・山口大学兼任）と共にウダヤナ大学を訪問し，同学の A.A. Raka Sudewi 学長，I Nyoman Gde Antara 学術研究担当副学長，I Putu Gede Adiatmika 大学院研究長，NPG



Suardana 工学部長らと個別に会談し，大学間および大学院・学部連携などについて意見交換を行いました。

これまで，同大学とは，2007年に理工学研究科との部局間協定，2010年に大学間協定を結び，同大学構内に山口大学国際連携オフィスを設置，2010年からは，文部科学省・宇宙利用促進調整委託を受け，大学院博士前期課程においてリモートセンシングと環境科学を主専攻とするダブルディグリープログラムを実施しています。さらに，ダブルディグリープログラム修了者の博士後期課程進学促進，最近では，本学工学部グローバル人材育成における学部学生の短期派遣，国際総合科学部学生の留学派遣が行われ，両大学の教育・研究の双方向の連携協力が展開しています。重点大学連携事業はこのような両大学の連携を一層図るために，特に「衛星リモートセンシング」をテーマに共同研究の推進，人材育成に取り組んでいます。



このたびの訪問では，ウダヤナ大学からの要請で，清水教授が土木工学を専攻する大学院生，学部生約70名を対象に特別講義「Displacement Monitoring Using Satellite Technology for Risk Management」を行い，自然災害や地盤安定の監視のための宇宙技術の最新の利用について多くの事例を挙げながら説明しました。事例には，インドネシアの広域地盤沈下や鉱山斜面の安定監視が含まれ，それらはウダヤナ大学から本学清水研究室に留学している二人の博士後期課程学生の成果のため，出席した学生は大きな

関心を持ち活発な質問がありました。また、行事の合間を縫って、グローバル人材教育で留学している本学工学部2年生7名（社会建設工学科5名，応用化学科1名，知能情報工学科1名）と懇談しました。生活の違いにやや戸惑いを見せつつも，全員快活にプログラムに参加している様子でした。



その後，在デンパサール日本国総領事館総領事に表敬訪問を行いました。総領事らはすでに本学国際総合科学部からの3名の派遣留学生と面会し，学生の活発な様子をご覧になっていて，本学の取り組みを高く評価されました。

今回の訪問によって，本学とウダヤナ大学の連携は実質的に着実に進んでいることが確認され，本事業が本学の取り組む他の大学間国際連携のモデルとなることが一層期待されます。

○ 維新 150 周年記念市民講演会「UCL で学んだ長州ファイブの姿」が開催されました



3月14日（水），山口大学吉田キャンパス大学会館大ホールにて，維新 150 周年記念市民講演会「UCL で学んだ長州ファイブの姿」が，本学と本学の国際交流協定校であるユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（UCL）の共催で開催され，約 180 名が参加しました。本講演会は，維新 150 周年を迎え，グローバル化といった多くの課題に対応していくうえで明治維新をけん引した先人の志を学ぶとともに，海外から見た我が国の歴史がどのように理解されているか知ることを通して地域の国際化促進に貢献する目的で開催されたものです。

講演会冒頭，岡正朗学長から，開会の挨拶が述べられた後，UCL のジム・アンダーソン教授（専門は化学）による講演，「UCL で学んだ長州ファイブの姿」が開催されました。講演では，当時の長州ファイブがロンドン留学に至った経緯にふれた後，長州ファイブが師事したアレキサンダー・ウィリアムソン夫妻との関係や実際に学んだことなどについて紹介されました。アンダーソン教授によると，列強の進出に対応するためには軍事力の強化が必要であったことから，長州ファイブは当初，当時世界最強を誇ったイギリスの海軍の技術を学ぶために渡航，様々な困難を乗り越え，イギリスに到着した後，国籍や宗教に関係なく生徒を受け入れていた UCL の中でも特に国際感覚豊かな人物であった同大学の化学部長のウィリアムソン教授のもとで学ぶことになったとのこと。ウィリアムソン教授は長州ファイブが UCL で学べるように支援するだけでなく，夫人とともに現地での生活も手厚く支援し，化学教育や英語の指導を行うなど極めて協力的であった等，当時の様子について写真等を使用しながら紹介され，聴講者は真剣な表情で聞き入っていました。



講演後に行われた質疑応答では，「当時のイギリスの社会情勢を想像するに，これほど 5 人がすんなりと現地に適応できたという事は驚異的でありつつ，差別もあったのではない

か」という質問に対して、「5人はウィリアムソン夫妻の支援を受けるとともに、UCLでは多くのアジア諸国から留学生を受け入れるなどの背景があった。また、5人が現地の工場の視察を行った際の新聞記事が残っている。少なくとも大学内において差別的な扱いは受けていなかったようだ。一方で、実社会では差別があったことは想像できる」とのことで、改めて、ウィリアムソン夫妻の支援の重要性や5人の現地で直面した問題について考えさせられました。

最後に、山口大学三浦房紀副学長（国際連携担当）より閉会の挨拶があり、盛況のうちに講演会は終了しました。

本年は維新150周年を迎え、山口県内でも多くのイベントが開催される予定です。山口大学もこれを機にUCLとの交流をさらに活発化されるとともに、今後ともこうした活動を通し、地域の国際化促進に貢献します。



3. 国際交流協定

(1) 2017年度の国際交流協定の締結等

2017年度は国際交流協定を17大学・機関(大学等間10大学・機関, 学部間7大学)と締結し、15の大学(大学12大学, 学部間3大学)と更新した。

その結果、2018年3月末現在で、山口大学は大学等間では24ヵ国・地域の101大学・機関と国際交流協定を締結し、学部等間では9学部、3研究科が25ヵ国・地域の56大学・機関と国際交流協定を締結している。

(2) 大学等間国際交流協定

国・地域名	機関名 (英語表記)	締結年月日	学生交流覚書
インドネシア	ブラウイジャヤ大学 (Brawijaya University)	2008.04.15	有
	ガジヤマダ大学 (Gadjah Mada University)	2008.10.14	
	ボゴール農科大学 (Bogor Agricultural University)	2010.03.10	
	ウダヤナ大学 (Udayana University)	2010.03.25	有
	バンドン工科大学 (Bandung Institute of Technology)	2012.05.25	有
	インドネシア大学 (University of Indonesia)	2015.12.16	有
	地理空間情報庁 (Geospatial Information Agency)	2016.07.20	
	財務省財政均衡総局 (Directorate General of Fiscal Balance, Ministry of Finance)	2016.01.21	
韓国	仁荷大学校 (Inha University)	1998.06.25	有
	公州大学校 (Kongju National University)	1999.03.15	有
	韓国外国語大学校 (Hankuk University of Foreign Studies)	2003.12.02	有
	慶尚大学校 (Gyeongsang National University)	2004.11.26	有
	ソウル市立大学校 (University of Seoul)	2009.12.21	有
	昌原大学校 (Changwon National University)	2010.02.10	有
	ソウル大学校 (Seoul National University)	2010.02.11	有
	亜州大学校 (Ajou University)	2010.03.08	有
	梨花女子大学校 (Ewha Womans University)	2010.03.08	有
	群山大学校 (Kunsan National University)	2010.04.26	有
	釜山外国語大学校 (Busan University of Foreign Studies)	2014.12.04	有
	全北大学校 (Chonbuk National University)	2015.09.16	有
	忠北大学校 (Chungbuk National University)	2016.12.23	有
	タイ	カセサート大学 (Kasetsart University)	1998.07.03
ソンクラ王子大学 (Prince of Songkla University)		2001.10.29	有
コンケン大学 (Khon Kaen University)		2001.10.30	有
チェンマイ大学 (Chiang Mai University)		2001.10.31	有
シーナカリンウィロート大学 (Srinakharinwirot University)		2001.11.01	有
タイ国農学研究機構 (Agricultural Research Development Agency)		2008.08.27	
チュラロンコン大学 (Chulalongkorn University)		2010.09.14	

国・地域名	機関名（英語表記）	締結年月日	学生交流覚書
中国	山東大学 (Shandong University)	1983.06.02	有
	北京師範大学 (Beijing Normal University)	2004.02.09	有
	武漢理工大学 (Wuhan University of Technology)	2004.05.20	有
	貴州大学 (Guizhou University)	2005.03.25	有
	重慶理工大学 (Chongqing University of Technology)	2010.11.19	有
	首都師範大学 (Capital Normal University)	2011.10.17	有
	江蘇大学 (Jiangsu University)	2013.09.03	有
	大連外国語大学 (Dalian University of Foreign Languages)	2013.12.30	有
	西安交通大学 (Xi'an Jiaotong University)	2015.04.28	有
	香港樹仁大学 (Hong Kong Shue Yan University)	2015.07.20	有
	香港教育大学 (The Education University of Hong Kong)	2015.09.02	有
	遼寧師範大学 (Liaoning Normal University)	2016.03.15	有
	浙江理工大学 (Zhejiang Sci-Tech University)	2017.01.03	有
	湖州師範大学 (Huzhou University)	2017.02.28	有
台湾	国立中興大学 (National Chung Hsing University)	2006.03.09	有
	東海大学 (Tunghai University)	2009.09.30	有
	逢甲大学 (Feng Chia University)	2009.09.30	有
	大葉大学 (Dayeh University)	2009.09.30	有
	静宜大学 (Providence University)	2009.09.30	有
	開南大学 (Kainan University)	2012.10.15	有
	国立高雄師範大学 (National Kaohsiung Normal University)	2014.11.18	有
	淡江大学 (Tamkang University)	2016.12.29	有
ベトナム	教育訓練省 国際教育開発局 (Vietnam International Education Development, Ministry of Education and Training)	2009.03.30	有 (相互協力附属 書)
	カントー大学 (Can Tho University)	2011.11.16	有
	ベトナム国立農業大学 (Vietnam National University of Agriculture)	2012.03.29	有
	ベトナム国家大学ホーチミン市校 国際大学 (International University - Vietnam National University in Ho Chi Minh City)	2015.07.21	有
	国立ハノイ教育大学 (Hanoi National University of Education)	2015.07.22	有
	東部国際大学 (Eastern International University)	2015.12.07	有

国・地域名	機関名 (英語表記)	締結年月日	学生交流覚書
ベトナム	ダナン科学技術大学 (University of Science and Technology, The University of Danang)	2017.07.05	有
マレーシア	サラワク大学 (University Malaysia Sarawak)	2012.03.29	有
	マレーシア工科大学 (University of Technology, Malaysia)	2012.09.05	有
	クアラルンプール大学 (University of Kuala Lumpur)	2016.07.13	有
	マラ工科大学 (University of Technology MARA)	2017.07.05	有
ラオス	ラオス国立大学 (National University of Laos)	2012.04.12	有
ミャンマー	イエジン農業大学 (Yezin Agricultural University)	2015.01.12	
イギリス	シェフィールド大学 (University of Sheffield)	1997.11.28	有
	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン (University College London)	2007.11.19	
	セントラル・ランカシャー大学 (University of Central Lancashire)	2012.11.05	(協定書内に学生交流に関する記載有)
ドイツ	フリードリヒ・アレクサンダー大学 エアランゲン・ニュルンベルク (Friedrich-Alexander University Erlangen-Nuremberg)	2003.03.17	有
	ホフ大学 (Hof University of Applied Sciences)	2015.03.16	有
	ベルリン・ボイト工科大学 (Beuth University of Applied Sciences Berlin)	2015.08.17	有
フランス	リール第3大学 (Lille 3 University)	2015.10.16	有
	カトリック・ド・リール大学 (Lille Catholic University)	2016.01.20	有
スペイン	サラゴサ大学 (University of Zaragoza)	2014.11.27	有
	バルセロナ自治大学 (Autonomous University of Barcelona)	2015.09.14	
	ハイメ I 世大学 (Jaume I University)	2017.10.26	有
ハンガリー	エトヴェシュ・ロラード大学 (Eotvos Lorand University)	2015.05.25	(協定書内に学生交流に関する記載有)
	カーロリ大学 (Károli Gáspár University of the Reformed Church in Hungary)	2015.08.18	有 (国際総合科学部)
ロシア	モスクワ大学 (M.V. Lomonosov Moscow State University)	2015.03.05	
	モスクワ工業大学 (Moscow Technological University)	2015.11.26	
	ロシア国立農業大学 モスクワ・ティミリャーゼフ農業アカデミー (Russian State Agrarian University - Moscow Timiryazev Agricultural Academy)	2017.09.07	
リトアニア	ヴィータウタス・マグヌス大学 (Vytautas Magnus University)	2015.09.03	有

国・地域名	機関名（英語表記）	締結年月日	学生交流覚書
デンマーク	サザンデンマーク大学 (University of Southern Denmark)	2016.05.26	有
アメリカ 合衆国	オクラホマ大学 (University of Oklahoma)	1996.02.19	有
	ハワイ大学ヒロ校 (University of Hawai'i at Hilo)	2015.02.25	
	中央フロリダ大学 (University of Central Florida)	2015.04.16	有
	カリフォルニア州立大学ポリテック大学ポモ ナ校 (California State Polytechnic University, Pomona)	2015.03.20	
	フィッチバーグ州立大学 (Fitchburg State University)	2015.12.21	有
	マンハッタンビル大学 (Manhattanville College)	2016.07.19	有
カナダ	リジャイナ大学 (University of Regina)	1996.02.07	有
チリ	バルパライソ大学 (University of Valparaiso)	2015.07.02	有
	コンセプション大学 (University of Concepcion)	2016.01.13	有
ブラジル	サンパウロ大学 (University of São Paulo)	2018.02.19	
	サンパウロ・ポンティフィシア・カトリック大学 (Pontifical Catholic University of São Paulo)	2018.02.27	
ペルー	ペルー国立工科大学 (National University of Engineering)	2016.09.20	
	ラ・モリーナ国立農業大学 (La Molina National Agrarian University)	2017.06.06	有
	国立サンマルコス大学 (National University of San Marcos)	2017.08.28	有
	サン・イグナシオ・デ・ロヨラ大学 (Saint Ignatius of Loyola University)	2017.08.29	有
	ペルー国家防災庁 (National Institute of Civil Defense (INDECI))	2017.08.29	
オースト ラリア	ニューカッスル大学 (University of Newcastle)	2003.08.08	有
	シドニー工科大学 (University of Technology, Sydney)	2012.05.30	有
	サザンクロス大学 (Southern Cross University)	2015.08.20	
ニュージー ランド	リンカーン大学 (Lincoln University)	2015.11.11	有

(3) 部局等間国際交流協定

国・地域名	締結部局	機関名 (英語表記)	締結年月日	学生交流覚書
インドネシア	工学部	マランイスラム大学 医学部 (Faculty of Medicine, Islamic University of Malang)	2014.06.27	
		マランイスラム大学 農学部 (Faculty of Agriculture, Islamic University of Malang)	2014.06.27	
		マランイスラム大学 工学部 (Faculty of Engineering, Islamic University of Malang)	2015.07.31	
	理工学研究科	リアウ大学 工学部 (Faculty of Engineering, Riau University) 国家防災庁 データ・情報・広報センター (Center of Data, Information and Public Relations, National Disaster Management Agency)	2014.12.24 2016.01.21	有
韓国	教育学部	釜山大学校 教育学部 (College of Education, Pusan National University)	2010.06.21	
	理学部	韓国天文研究院 電波天文研究部 (Radio Astronomy Division, Korea Astronomy and Space Science Institute)	2010.03.15	
	工学部	又松大学校 鉄道物流学部 (College of Railroad and Transportation, Woosong University)	2010.02.01	
タイ	医学部	マヒドン大学 看護学部 (Faculty of Nursing, Mahidol University)	2001.03.26	
	農学部	キングモンクット工科大学 トンブリ校 生物資源工学研究科 (School of Bioresources and Technology, King Mongkut's University of Technology Thonburi)	2006.05.23	有
		タクシン大学 技術・地域開発学部 Faculty of Technology and Community Development, Thaksin University)	2012.01.16	
		メージョー大学 農学生産学部 (Faculty of Agricultural Production, Maejo University)	2012.02.23	有
		ラジャマンガラ工科大学 農業産業技術学部 (Faculty of Agro-Industrial Technology, Rajamangala University of Technology Tawan-ok)	2013.07.11	有
		メーファールアン大学 理学部 (School of Science, Mae Fah Luang University)	2016.01.04	有
中国	教育学部	復旦大学 情報科学工程学院 (School of Information Science and Engineering, Fudan University)	2005.09.23	有
	経済学部	中国人民大学 経済学院 (School of Economics, Renmin University of China)	2001.06.03	有
	医学部	吉林大学 中日友好病院 (China-Japan Union Hospital of Jilin University)	2009.09.25	
		大連医科大学 (Dalian Medical University)	2006.12.14	
	工学部	上海交通大学 環境科学与工程学院 (School of Environmental Science and Engineering, Shanghai Jiao Tong University)	2004.02.11	
	工学部	西華大学 (Xihua University)	2007.02.05	有

国・地域名	締結部局	機関名（英語表記）	締結年月日	学生交流 覚書
中国	農学部	東北師範大学 環境学院 (School of Environment, Northeast Normal University)	2010.04.15	
	国際総合科学部	山東農業大学 外国語学院 (College of Foreign Languages, Shandong Agricultural University)	2016.03.15	有
	東アジア研究科	復旦大学 日本研究センター (Center for Japanese Studies, Fudan University)	2001.10.29	
台湾	経済学部	国立高雄餐旅大学 (National Kaohsiung University of Hospitality and Tourism)	2012.03.09	有
	医学部	国立台湾大学 医学院 (College of Medicine, National Taiwan University)	2009.04.01	
	理学部	国立台湾大学 理学院 (College of Science, National Taiwan University)	2017.5.22	
		台湾師範大学 理学院 (College of Science, National Taiwan Normal University)	2016.12.30	
	教育学部	淡江大学 文学院 (College of Liberal Arts, Tamkang University)	2013.07.23	有
	人文学部	東呉大学 人文社会学部 (School of Liberal Arts and Social Sciences, Soochow University)	2014.09.19	
モンゴル	共同獣医学部	モンゴル国立生命科学大学獣医学研究所 (Institute of Veterinary Medicine, Mongolian University of Life Sciences)	2015.11.13	
ネパール	連合獣医学研究科	農業林業大学 畜産獣医水産学部 (Faculty of Animal Science, Veterinary Science and Fisheries, Agriculture and Forestry University)	2015.03.05	
バングラデシュ	理学部	バングラデシュ核エネルギー食物・放射線生物学研究所 (Institute of Food and Radiation Biology, Atomic Energy Research Establishment)	2000.05.04	
	農学部	ジャハンギナガル大学 生物科学部 (Faculty of Biological Science, Jahangirnagar University)	2012.03.06	有
ベトナム	共同獣医学部	ベトナム農業農村開発省畜産研究所 (National Institute of Animal Science, Ministry of Agriculture and Rural Development)	2012.07.24	
	理学部	フエ大学 理学部 (Hue University of Sciences, Hue University)	2017.04.18	有
スリランカ	農学部	サバラガムア大学 農学部 (Faculty of Agricultural Sciences, Sabaragamuwa University of Sri Lanka)	2014.01.23	有
		スリランカ農業局及び ペラデニア大学農学研究科 (Department of Agriculture, Sri Lanka & Postgraduate Institute of Agriculture, University of Peradeniya)	2016.03.03	
インド	工学部	クルクシェトラ工科大学 (National Institute of Technology, Kurukshetra)	2017.01.11	
トルコ	工学部	ダンルピナー大学 工学部 (Faculty of Engineering, Dumlupinar University)	2015.05.20	有
	工学部	シェヒル大学 工学・自然科学部 (College of Engineering and Natural Sciences, Istanbul Sehir University)	2017.04.19	有

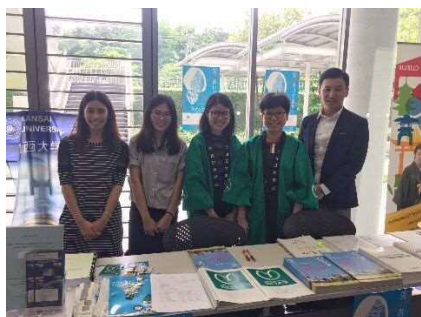
国・地域名	締結部局	機関名 (英語表記)	締結年月日	学生交流覚書
ウクライナ	教育学部	イヴァン・フランコ記念リヴィウ国立大学 (Ivan Franko National University of L'viv)	2004.11.16	有
イギリス	工学部	ブリストル大学 工学部 (Faculty of Engineering, University of Bristol)	2010.03.01	
ロシア	医学部	カザン医科大学 (Kazan State Medical University)	2012.12.17	
ポルトガル	工学部	新リスボン大学 理工学部 (Faculty of Science and Technology, New University of Lisbon)	2013.08.08	有
フランス	工学部	ボルドー大学 (University of Bordeaux)	2014.03.11	有
スペイン	工学部	カンタブリア大学 産業工学通信学部 (School of Industrial Engineering and Telecommunications, University of Cantabria)	2015.02.25	有
スイス	国際総合科学部	ベルン応用科学大学 経営管理学部 (School of Business, Bern University of Applied Sciences)	2015.09.03	有
オランダ	農学部	ワーゲニンゲン大学 オラン大遺伝資源センター (Centre for Genetic Resources, the Netherlands (CGN))	2017.04.01	
ケニア	共同獣医学部	ナイロビ大学 獣医学部 (Faculty of Veterinary Medicine, University of Nairobi)	2017.06.30	
アメリカ合衆国	国際総合科学部	エルジンコミュニティカレッジ (Elgin Community College)	2015.07.28	(協定書内に学生交流に関する記載有)
	医学部	シティ オブ ホープ (City of Hope)	2017.08.01	
	医学系研究科	カンザス大学 メディカルセンター The University of Kansas Medical Center, The University of Kansas	2017.08.11	
アルゼンチン	農学部	ラプラタ大学 理学部 (Faculty of Science, National University of La Plata)	2011.04.27	
オーストラリア	教育学部	キャンベラ大学 (University of Canberra)	1994.03.15	
	連合獣医学研究科	西オーストラリア大学 農学研究科 (The UWA Institute of Agriculture, University of Western Australia)	2015.10.22	
ニュージーランド	農学部	ニュージーランド作物・食物研究所 (New Zealand Institute for Plant & Food Research Limited)	2008.09.03	

4. 海外拠点

本学では海外協定校の協力のもと、外国の教育研究機関との相互交流の推進及び本学の情報発信等を目的とし、5カ国計6ヶ所に国際連携オフィスを設置している。その内インドネシア、台湾、マレーシア、タイの4つの拠点事務所に現地スタッフを配置し、現地の優秀な学生獲得に向けた広報活動、本学派遣学生の留学支援や等行っている。

2017年11月にはタイのバンコク国際連携オフィスと連携して、山口大学海外同窓会タイ支部を設立し、設立総会には本学卒業生及びタイ帰国研究者、本学教職員等約50名が出席した。総会ではバンコク国際連携オフィスとその役割についての周知が行われるとともに卒業生名簿が作成され、本学の国際活動への協力者を確保した上で重点拠点国タイにおける本学のネットワーク作りの基盤を整備した。

- ① 「山口大学 北京国際連携オフィス」
住所：中国 100875 北京市新街口外大街 19 号 北京師範大学内
- ② 「山口大学 山東国際連携オフィス」
住所：中国 250100 山東省済南山大南路 27 号 山東大学内
- ③ 「山口大学 バリ国際連携オフィス」
住所：Udayana University
Jl.P.B Sudirman Campus Gedung FISIP 2F Denpasar Bali Indonesia
- ④ 「山口大学 台湾国際連携オフィス」
住所：台湾 51591 彰化県大村郷学府路 168 号 大葉大学内
- ⑤ 「山口大学 クアラルンプール国際連携オフィス」
住所：Malaysia-Japan International Institute of Technology (MJIT)
Universiti Teknologi Malaysia Kuala Lumpur Campus
Jalan Sultan Yahya Petra, 54100, Kuala Lumpur Malaysia
- ⑥ 「山口大学 バンコク国際連携オフィス」
住所：Kasetsart University
50 Ngam Wong Wan Rd, Ladyao Chatuchak Bangkok, 10900, Thailand



留学フェアへの参加
(2017年6月バンコクオフィス)



UTM 内で学生アンケートの実施
(2018年3月クアラルンプールオフィス)

5. 本部への海外からの来訪者

日時	訪問者	国
2018/4/11	<u>忠北大学校</u> 金美恵 電気・コンピュータ工学部教授	韓国
2018/5/18	<u>シェヒル大学</u> Ilknur Kaplan 事務職員	トルコ
2018/5/25	<u>嘉興学院</u> 李月順 国際交流処副処長 郭永恩 外国語学院副院長	中国
2018/5/31	<u>新リスボン大学</u> Pedro Cabral 情報管理学部准教授 Paulo Costa 国際部職員	ポルトガル
2018/6/6	<u>カイゼン</u> （ロシア・クラスノダール地方における日本センター） Andreeva Olga 代表 Ekaterina Voloshina 副代表 Maria Kirsanova 財務部長	ロシア
2018/6/13	<u>ハノイキッズクラブ</u> 25名	ベトナム
2018/7/4	<u>シェヒル大学</u> Ensar Gül 工学・自然科学部教授 <u>新リスボン大学</u> Raquel Martinho 国際部職員 Célia Janota 国際部職員 Carlotta Pisano 国際部職員	トルコ ポルトガル
2018/7/5	<u>ダナン工科大学</u> Le Thi Kim Oanh 副学長 <u>マラ工科大学</u> Norázam Mastuki ビジネススクール長 Hadijah Ibrahım 講師	ベトナム マレーシア
2018/7/20	<u>チェンマイ大学</u> Nantaporn Sansiriphun 看護学部助教 看護学部生 4名	タイ
2018/7/20	<u>サイアム大学</u> 高田知仁 日本語コミュニケーション学科長	タイ

日時	訪問者	国
2018/7/24	<u>バングラデシュ 地方行政研修所</u> Tapan Kumar Karmaker 所長 <u>JICA バングラデシュ 事務所</u> 宗像朗 地方行政アドバイザー	バングラデシュ
2018/7/28	<u>アイルランガ大学</u> Pudji Srianto 獣医学部長 Fedik Abdul Rantam 獣医学部第1副学部長 Mufasirin 獣医学部第2副学部長 Muchammad Yunus 獣医学部アンバサダー	インドネシア
2018/10/31	<u>忠北大学校</u> Park, Jai Hak 工学部長 Jun, Hang Bae 環境工学科教授 Joo, Jong Hoon 先端材料工学科准教授 Kim, Seungku 電子工学科准教授	韓国
2018/10/31	<u>カセサート大学</u> Supa Hannogbua 理学部長 Weeraphart Khunrattanasiri 森林学部准教授	タイ
2018/11/10	<u>大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館</u> Werner Köhler 総領事	ドイツ
2018/11/28	<u>山東大学</u> 艾量 財務部副部長 劉洋 情報サービスセンター課長	中国
2018/12/5	<u>カセサート大学</u> Kampanat Pensupar 教育担当副学長	タイ
2018/12/12	<u>在福岡米国総領事館</u> ジョイ・ミチコ・サクライ 首席領事	アメリカ
2018/12/14	<u>群山大学校</u> Na Euigyun 学長 Lee Seongryong 企画所長（副学長） Jin Renjun 国際交流教育院職員	韓国
2018/12/18	<u>浙江理工大学</u> 孫旭東 副学長 丁佐華 情報学部長 黄新海 経済管理学部副学部長 張信群 高等教育発展研究センター長 安晨寧 国際交流協力部プログラムマネージャー	中国

日時	訪問者	国
2018/12/19	<u>バングラデシュ反汚職委員会</u> Iqbal Mahmood 議長	バングラデシュ
2018/1/23	<u>カルカッタ大学</u> Sharmistha Banerjee 経営管理学部教授	インド
2018/3/7	<u>山東大学</u> 楊魯慧 アジア太平洋研究所長 他4名	中国
2018/3/14	<u>ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン</u> Jim C. Anderson 化学科教授 Helen C. Hailes 化学科教授	イギリス

6. 本学学長の海外訪問

訪問日程	訪問先・内容（訪問者）	国・地域名
2017年8月	<ul style="list-style-type: none"> ・サンパウロ大学表敬訪問 ・サンパウロ・ポンティフィシア・カトリック大学表敬訪問 ・ブラジル山口県人会創立90周年記念式典出席 ・ペルー山口県人協会創立90周年記念式典出席 ・国立サンマルコス大学表敬訪問，同大学との国際交流協定調印式出席 ・ペルー国家防災庁表敬訪問，同大学との国際交流協定調印式出席 ・サン・イグナシオ・デ・ロヨラ大学表敬訪問，同大学との国際交流協定調印式出席 	ブラジル ペルー
2017年9月	<ul style="list-style-type: none"> ・東方経済フォーラム2017出席，ロシア国立農業大学モスクワ・ティミリャーゼフ農業アカデミーとの国際交流協定調印式出席 	ロシア
2017年10月	<ul style="list-style-type: none"> ・山東大学青島新キャンパス視察，張永兵副学長表敬訪問 ・山東大学との国際交流協定調印式出席，樊麗明学長表敬訪問 ・山口大学海外同窓会中国山東支部親睦会出席 	中国
2018年2月	<ul style="list-style-type: none"> ・カセサート大学創立75周年記念学長フォーラム出席 	タイ

7. 国際会議、国際シンポジウムの開催

山口大学では、教員・研究者が海外の大学を訪問し、また海外で開催される各種学会・シンポジウム等に参加するばかりでなく、海外の研究者や国際的に活躍している著名人を招へいして、国際シンポジウム等を開催している。2017年度は次表のとおり講演会を開催した。3月には、本学協定校である英国のユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（UCL）との共催により、同大から講師を招いて市民講演会を開催し、当日は200名近い市民が参加した。

国際シンポジウム等開催状況（2017年度）

	名称	期日
1	第6回ダイバーシティ推進セミナー 山口大学「国際協力の里」特別講演会 「English + Study Abroad: Become a leader! ーアメリカで学ぶ！多文化共生，グローバルリーダーとは？ー」	2017年12月12日
2	山口大学「国際協力の里」特別講演会 「明治維新150周年記念市民講演会 UCLで学んだ長州ファイブの姿」	2018年3月14日



「English + Study Abroad: Become a leader!
ーアメリカで学ぶ！多文化共生，グローバルリーダーとは？ー」
(2017年12月12日)



「明治維新150周年記念市民講演会
UCLで学んだ長州ファイブの姿」
(2018年5月14日)

8. 海外協定校との連携プロジェクトの推進

(1) 交流学生への支援体制強化

海外協定校と協力して優秀な学生をコンスタントに相互交流することを可能にするため、山東大学（中国）（継続）やハイメ I 世大学（スペイン）（新規）との交流学生へ奨学金を支給する制度の開始・運用について大学・支援企業や自治体等関係者等と交渉を実施した。山東大学とは奨学金額を物価状況等に応じて柔軟に支給額を決定できるよう、毎年関係者で協議・決定することとし、きめ細かい留学支援を実施し、ひいては優秀な学生の交流を継続的に実施できる体制を整備した。

(2) 工学系国際教育プログラムの実施

工学系国際教育プログラムを実施し、海外協定校を中心とした100人以上の日中韓の学生が本学に集い互いの研究成果について披露するとともに、さらに研究の発展させるための意見交換を教員・学生交えて実施した。また、同プログラム参加大学からの学長等による日中韓学長会議を開催し、国際的な大学連携に基づいた課題抽出、新たな教育プログラム構築のための検討・連携のための議論を実施し、前述の国際教育プログラムと連動した協力関係を構築した。これにより、来年度以降はさらにプログラム参加学生を増やすとともに、プログラムに教員評価等を盛り込むことで、プログラムの質の向上を見込むことができる。

(3) 県人会との連携をもとにした海外協定校との交流

南米やハワイへ多くの日本人移民が山口県内から輩出された歴史に基づく絆を再確認し、さらに将来に向けた新たな絆を大学として構築するため、平成28年8月に学長・副学長他が県知事や市民団体と共にペルー・ブラジルを訪問し、南米ー山口間の未来の架け橋となる人材育成に共に取り組むことを現地山口県人会と確認するとともに、具体的な交流を実現するため、新たにペルー4大学、ブラジル2大学・機関との国際交流締結を実現した。さらに、移民150年を迎える米国ハワイ州の大学等との交流促進にも努め、特に学生交流に関しては、現地山口県人会からの支援が得られることとなった。これら新たな国・地域との学術交流については、大学のみならず現地山口県人会とも連携した本学ならではのユニークな国際連携プログラムとして推進していく。

(4) 学生交流プログラムの実施

質の高い留学生の派遣・受入を促進するため、海外協定校と連携した学生交流プログラムを実施した。協定校であるリジャイナ大学、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン、ニューカッスル大学、韓国外国語大学、北京師範大学が主催する短期語学研修に、合計18名の学生を参加させた。また、日本学生支援機構（JASSO）が実施する海外留学支援制度（協定派遣／協定受入）に5件のプログラムが採択され、協定校との交流に基づいた派遣126名、受入25名の学生海外交流を実施した。

(5) 学外機関との連携をもとにした学生海外派遣の実施

学外機関との連携により、渡航費援助型の学生海外派遣を実現した。日中友好協会主催の「日中友好大学生訪中団」には本学から25名の学生が参加し、また、外務省主催「北米地域との交流カケハシ・プロジェクト」には11名の学生が参加するなどして、経済的な負担を少なくした上で多くの学生が参加できる留学プログラムを実施した。参加学生には事前準備・事後報告など体系的な留学指導を実施し、教育効果の高い学生海外交流事業となった。

9. 政府開発援助（ODA）との連携実績

山口大学では、「国際協力銀行」(ODA 担当部門は、2008 年 10 月に「国際協力機構(JICA)」と統合した。)との間で、2004 年 5 月 7 日に「国際協力銀行と山口大学との海外経済協力分野に関する協力協定書」を締結し、また教育学部、経済学部が JICA（中国国際センター）との間で 2006 年 3 月 27 日に「JICA 中国国際センターと山口大学との連携協力覚書」を締結している。（※これらは「独立行政法人国際協力機構と山口大学との間の連携協定」に 1 本化し、本学学長と JICA 理事長の間で 2010 年 6 月 1 日に署名・締結し、2015 年 6 月 1 日に更新した。）2017 年度の実績は以下のとおり。

(1) 専門家派遣（H29 年度）

プロジェクト	形態	派遣期間	対象国・地域
東ティモール国立大学工学部能力向上プロジェクトフェーズ 2	短期	2017 年 8 月（3 名） 2017 年 11 月（2 名）	東ティモール
タンザニア国コメ振興支援計画プロジェクト運営指導調査	短期	2017 年 6 月（1 名）	タンザニア

(2) 研修員受入（H29 年度）

コース名	形態	受入期間	国・地域名
アフリカ研修員受入	青年	2017 年 9 月～10 月（18 名）	アフリカ 12 ヶ国
日本の防災対策	日系個別	2017 年 10 月～11 月	ブラジル

(3) ODA 資金による中小企業海外展開支援事業

採択企業	調査名	対象分野	対象国
株式会社アースクリエイティブ	インドネシア国バリ州における浄化槽の包括的な維持管理体制の構築による水環境改善案件化調査	水処理・水の浄化	インドネシア
協和建設工業株式会社	農業生産性向上のためのシートパイプシステム導入に関する案件化調査	農業	インドネシア

(4) JICA 協力授業

- ・国際協力論：経済学部 後期 2 単位

本講義では、教員の現場での経験や国際場裏での潮流を踏まえ、私たちの国際貢献の一つの形としての国際協力の在り方、改革の方向性について考察する。

(5) 青年海外協力隊広報協力

学生及び地域住民を対象とする制度説明会の開催、協力隊募集ポスターの掲示。自主活動ルームコーディネーター、国際戦略室教員による希望学生指導。

(6) 農林水産省による ODA 事業との連携

アジア諸国における野菜新品種の導入支援 世界蔬菜センター (AVRDC) 及びアジア諸国の研究機関の連携による、アジア諸国での野菜新品種導入支援、日本国種苗産業のアジア諸国への事業展開支援 (農学部)

10. 研究者の交流

大学の主要な活動である研究においては、海外でのデータの収集、海外機関との研究交流による研究の加速化と精度の向上は不可欠であり、毎年多くの教員、研究者を海外に派遣し、また山口大学にも多くの海外の大学教員、研究者を受け入れている。また国際的なネットワークや連携を通じて、共同研究、シンポジウムの開催、授業の相互提供といった国際活動が行われている。

2017 年度は延べ 890 名の教員を上記の目的で海外に派遣した。また 2017 年 4 月から新しく受入れを開始した外国人研究者の合計は、68 名であった。

※人数の把握は、「国立大学法人山口大学海外渡航事務取扱要領」及び「国立大学法人山口大学外国人研究者規則」による。

(1) 重点連携大学事業について

本学では、研究分野を主体とした国際連携活動を強化することにより大学の研究レベルの高度化を図ると共に、学術を通じた教育支援及び国際貢献を行うことを目的として、特に本学の研究力向上につながると期待できる海外の大学を重点連携大学として選定し、選定大学との国際連携活動に対して支援を行っている。

平成 29 年 5 月に重点連携大学の再選定を実施し、現在 13 の大学等を本学にとっての重点連携大学として指定するとともに、11 の重点連携大学事業に対して支援を行っている。H29 年度は本学や相手大学等で国際会議やシンポジウムが開催され、また若手研究者の交流も活発に行われる等相手大学との充実した研究交流が行われた結果、国際共著論文が発表される等着実に成果が上げられている。

11. 職員の研修

(1) 山口大学海外派遣 SD (スタッフ・ディベロップメント) 研修

山口大学教育研究後援財団の支援を受け、毎年以下のとおり事務系職員を 1 週間程度海外に派遣し、海外の大学における管理方法、研究・教育支援体制を学ぶほか、職員の外国語能力の向上やグローバルマインドの醸成に努めている。

2017 年度は学長、人事労務担当副学長、国際連携担当副学長出席のもと学内報告会を実施し、研修者一人一人が、自身の業務内容や大学国際化の観点から、課題やその解決に向けた提案を行った。

SD 研修が開始された 2004 年からの派遣実績は次表のとおりである。

年度	派遣者数	派遣国	派遣大学
2004	2	アメリカ	オクラホマ大学
		イギリス	シェフィールド大学
2005	2	アメリカ	ハワイ大学
		イギリス	シェフィールド大学
2006	2	カナダ	リジャイナ大学
		ドイツ	フリードリヒ・アレクサンダー大学・エアランゲン・ニュルンベルク
2007	2	アメリカ	オクラホマ大学
		オーストラリア	ニューカッスル大学
2008	2	中国	山東大学・香港中文大学
2009	2	中国	山東大学
2010	4	中国	山東大学
		台湾	大葉大学ほか
		インドネシア	ウダヤナ大学
2011	3	中国	山東大学
		インドネシア	ガジャマダ大学
2012	4	中国	山東大学
		台湾	大葉大学
		インドネシア	ガジャマダ大学
2013	13	中国	山東大学
		台湾	大葉大学
		インドネシア	ウダヤナ大学
		ベトナム	ハノイ農業大学・カントー大学
2014	16	タイ	カセサート大学・ラジャマンガラ工科大学
		中国	山東大学
		台湾	大葉大学
		インドネシア	ウダヤナ大学・ガジャマダ大学
		オーストラリア	シドニー工科大学・ニューカッスル大学
		カナダ	リジャイナ大学
2015	13	タイ	チェンマイ大学・シーナカリンウィロート大学
		マレーシア	マレーシア工科大学・マレーシア日本国際工科院
		中国	山東大学
		台湾	大葉大学・東海大学・静宜大学
		タイ	チュロンコン大学・カセサート大学
		マレーシア	マレーシア工科大学・マレーシア日本国際工科院
		インドネシア	バンドン工科大学・ウダヤナ大学・国際交流基金ジャカルタ日本文化センター・インドネシア大学・ダルマプルサダ大学
		オーストラリア	ニューカッスル大学・シドニー工科大学
2016	9	イギリス	ブリストル大学・サリー大学・セントラルランカシャー大学・JSPSロンドン
		ドイツ	フリードリヒ・アレクサンダー大学・エアランゲン・ニュルンベルク
		中国	大連外国語大学・山東大学・APU上海オフィス
		台湾	大葉大学・国立中興大学・東海大学
2017	3	タイ	チェンマイ大学・カセサート大学
		インドネシア	インドネシア大学・ガジャマダ大学・ウダヤナ大学・APUジャカルタオフィス

(2) 山口大学業務英語能力向上研修

外国人留学生及び研究者の生活，教育，研究の支援や，部局等の国際交流を担当できる事務職員の育成を目指し，2010年度から，外国人対応の業務に必要なコミュニケーション及び英語能力向上研修として，ネイティブスピーカー講師による英会話訓練を行っている。

2017年度は，第3期中期目標・中期計画に掲げた「TOEIC スコア 800 点相当以上の職員を 5%以上とする」という数値目標達成をするため，TOEIC スコアアップに特化した内容で，吉田キャンパス及び常盤キャンパスそれぞれに研修クラスを設置した。研修終了後

には、受講者の TOEIC スコアの平均が 52 点上昇し、職員の TOEIC スコア 800 点相当の割合は、平成 28 年度 12 名（3.2%）から平成 29 年度 15 名（3.9%）となった。

12. 学内の国際化推進体制の整備

全学で学内文書の英語化を進めており、平成 29 年度は下記のとおり 44 件の文書の英語化し、平成 30 年度運用開始のための準備を行った。

英語化した学内文書一覧	
1	マナーブック
2	履歴書様式
3	履歴書記入要領
4	ICカード交付申請書記入例
5	Eメールアドレス取得申請書記入例
6	通勤届
7	扶養親族届
8	共同扶養に関する提出届
9	単身赴任届
10	給与等の口座振込申出書
11	着任届
12	社会保険・雇用保険被保険者資格取得
13	駐車許可申請書
14	採用時説明資料
15	給与WEB閲覧承諾書
16	給与所得者の扶養控除等申告書
17	労働条件通知書様式
18	採用時健康診断について
19	感染症罹患歴・予防接種歴等申告書
20	立替払請求書(採用時健康診断)
21	勤務時間・休暇の取扱い
22	留学生サポーターチラシ
23	採用時提出書類
24	マイナンバーの提供について
25	マイナンバー届出書提出要領
26	マイナンバー届出書
27	給与額通知
28	登録証について(学部生)
29	退職願等様式
30	組合員資格取得届
31	被扶養者申告書
32	扶養の申し立て
33	就職の申し立て
34	被扶養者の定義
35	採用・転入の説明文
36	学生生活の手引き
37	身上報告書
38	入学届
39	写真表
40	個人情報取扱承諾書
41	新入生のみなさんへ
42	住居届
43	長期履修学生について
44	医療給付金請求書

13. 海外同窓会活動

海外ネットワークを活用した留学促進のための海外広報を充実させるため、平成 29 年 11 月にバンコクオフィスと連携して山口大学海外同窓会タイ支部を新たに設立し、設立総会に本学卒業生や帰国研究者等約 50 名が出席した。また、平成 29 年 5 月にマレーシア同窓会、6 月にベトナム同窓会、10 月に中国（山東）同窓会をそれぞれ開催し、本学の教職員から最新の本学の教育研究活動の状況について情報提供を行うと共に、帰国研究者・留学生らと個別の意見交換を実施することで、新たな交流学生を山口大学へ呼び込むための海外広報の機会創出及び充実を図った。



マレーシア同窓会
(2017年5月19日)



ベトナム交流会
(2017年6月13日)



中国（山東）同窓会
(2017年10月18日)



タイ帰国研究者・留学生等交流会
(2017年11月18日)

第2章 2017年度の留学生部門の活動

2017年度の留学生総数は403名（H29年5月1日時点）であり、前年度より60名以上増加した（図1）。地域別ではアジア圏からの留学生数が上位を占めており（図2）、その中でも中国からの留学が最も多い（図3）。

交換留学に関しては、98名の学生を本学から派遣し、151名を受け入れた（秋入学を含む）。

本学から海外へ留学した学生数は過去最多の571名であった（図4）。

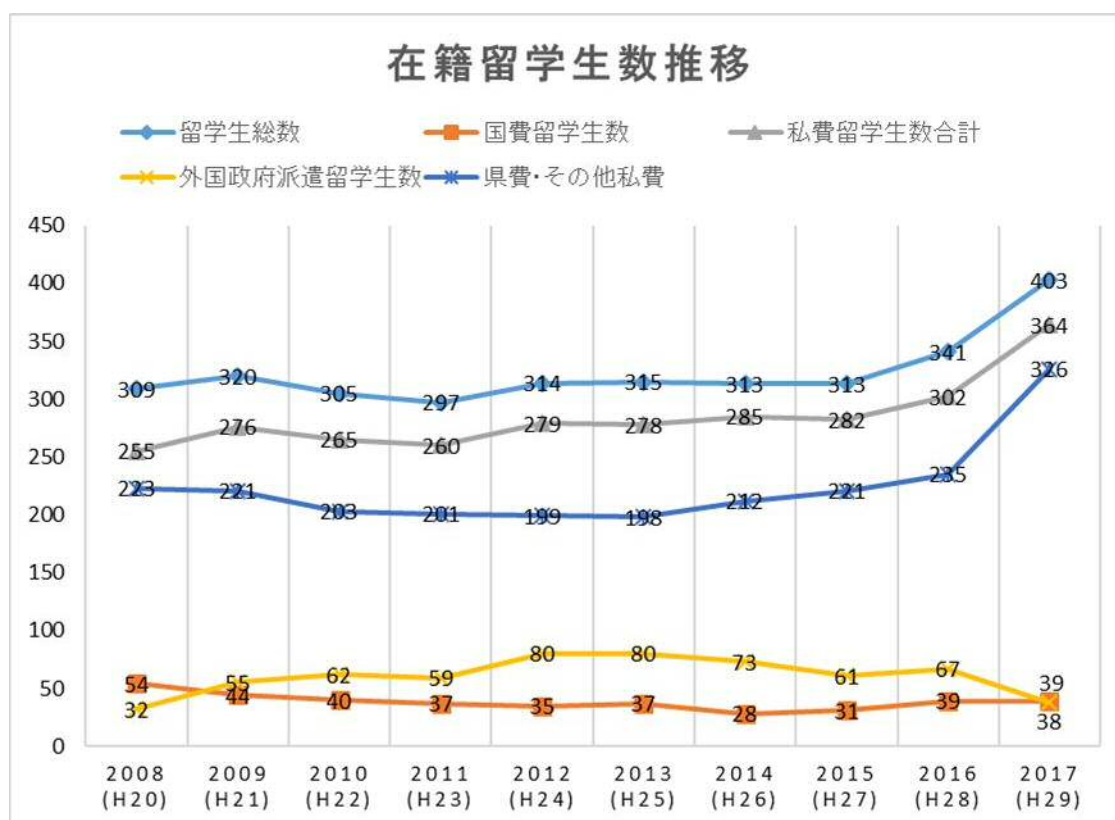


図1 在籍留学生数推移

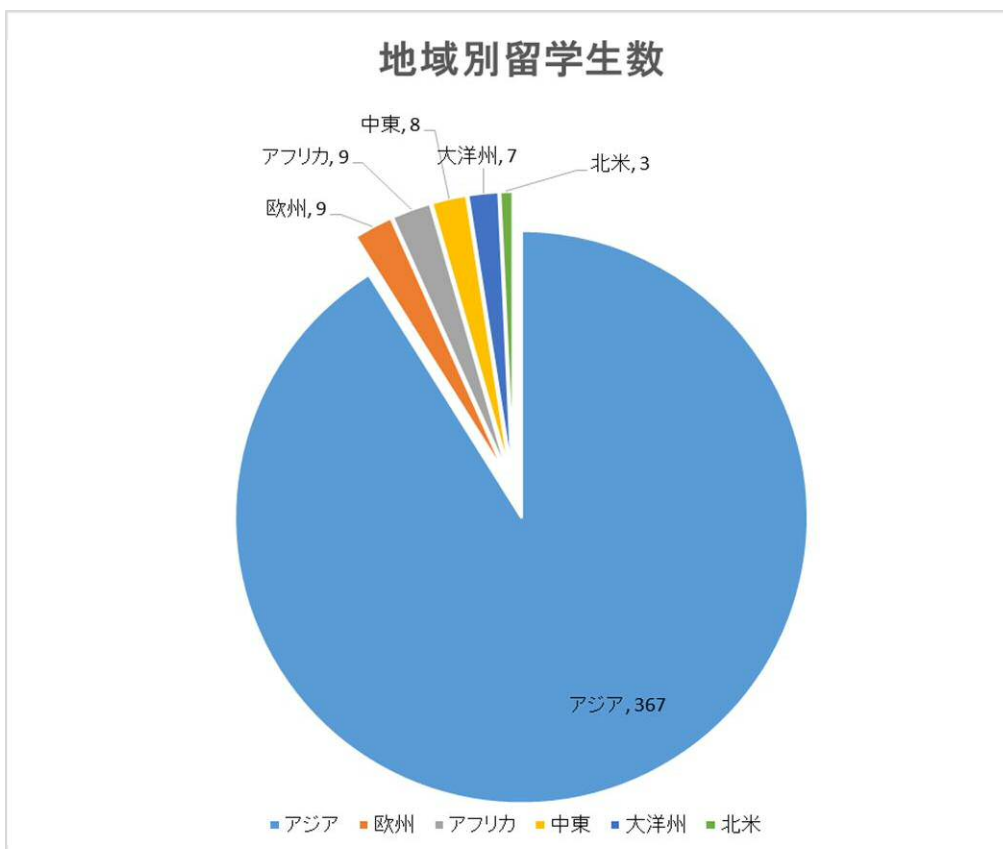


図 2 地域別留学生数

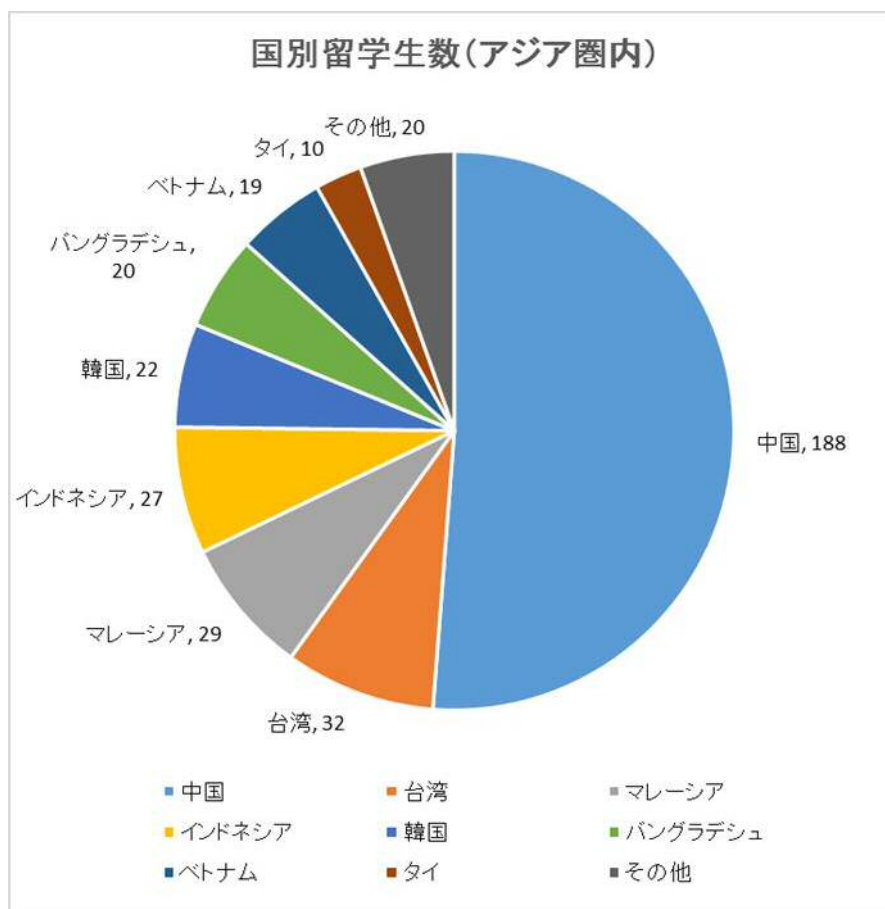


図 3 国別留学生数 (アジア圏内)

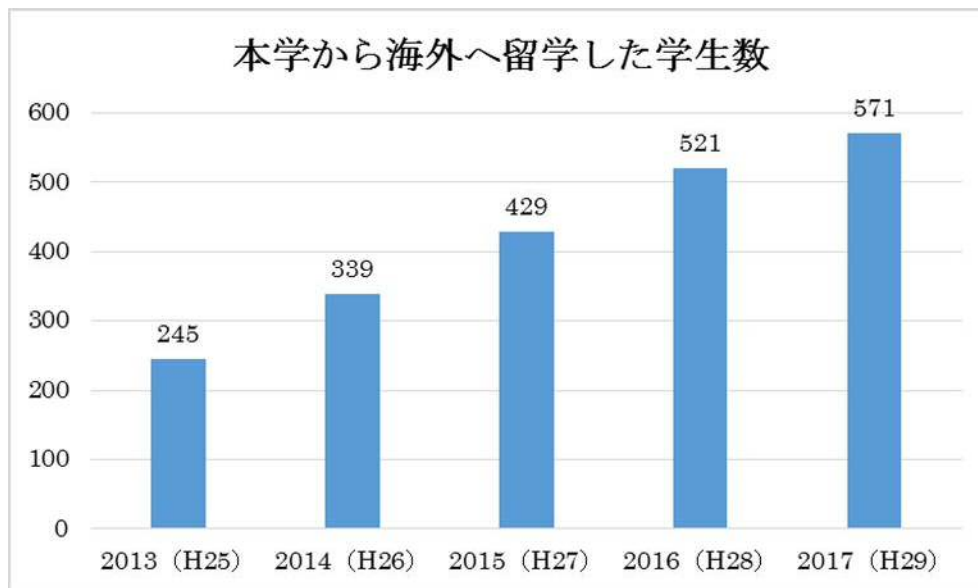


図4 本学から海外へ留学した学生数
 (※独立行政法人 日本学生支援機構の「留学生調査」の集計基準に準ずる)

1. 山口大学 HP「トピックス」で見る 2017 年度の留学生部門の活動

○ 山口ライオンズクラブから本学の留学生にリサイクル自転車が贈呈されました



4月19日(水)、吉田キャンパス国際交流会館前において、山口ライオンズクラブ主催による留学生へのリサイクル自転車贈呈式が行われました。山口ライオンズクラブは、ボランティア活動の一環として、本学の留学生に毎年10台のリサイクル自転車を贈呈しています。

式では、山口ライオンズクラブ会長の西谷千満喜氏から「自転車を日常の生活に活用してもらい、休日にはいろんなところに出かけてほしい。交通事故に十分気をつけて留学生活を楽しんでください。」と挨拶がありました。

また、留学生を代表して東アジア研究科1年生のドゥ ティ ヴァンさんが「自転車をいただいてとてもありがたい。交通ルールをしっかりと守って楽しく使用したい。」とお礼の言葉を述べました。

式終了後にはうれしそうに試運転する学生も見られ、今後、より便利な学生生活を過ごせると喜んでいました。



○ 国際交流ひらかわ風の会主催「留学生のための自転車交通安全運転教室」が開催されました



5月25日(木)、吉田キャンパス国際交流会館において、国際交流ひらかわ風の会主催による「留学生のための自転車交通安全運転教室」が行われ、本学留学生ら約30名が参加しました。国際交流ひらかわ風の会は、山口大学留学生と地域住民との安心安全の共生づくりを目指した国際交流活動を展開しており、この自転車教室は今年で14回目となります。

始めに山口警察署の吉川親房巡査部長から、傘差し運転等のマナーにはじまり、反射材の付け方、「止まれ」標識の説明等、自転車通学上の留意点や正しい乗り方の説明がありました。

続いて、屋外で国際交流会館前の通路を交差点に見立てた実践指導が行われ、実際に自転車を運転しながら、安全な走行方法を学びました。

本教室に参加した経済学研究科1年のアブドゥル・バリ・アフマドザイさんは、「普段からルールに気を付けているが、反射材を付けることを初めて知った。次からはしっかり付けたい。」と話していました。



○ 「ハラール・フード推奨メニュー」お披露目会を開催しました

8月3日(木)、吉田キャンパス第1学生食堂「ボーン」において、「ハラール・フード推奨メニュー」のお披露目会を開催しました。

本年5月にバングラデシュ出身の留学生から学内でのハラール食の提供と礼拝場所の整備について要望があり、これを受けて検討を進めてきたものです。

お披露目会には、バングラデシュやインドネシアからの留学生と家族が参加し、留学生を代表しハサン・カジさんから「学生食堂で安心して食事をとれるのがうれしい。」と挨拶があり、岡正朗学長は「多様な人材が学び切磋琢磨する大学には、留学しやすい環境づくりが大切。」と意義を語りました。その後、参加者はグリーンカレーとチキンのオープン焼きを味わいました。

ハラール・フードは、食材から調理方法までイスラム法で認められた食事で、事前にイスラム系留学生との話し合いや試食会、調理方法の確認などを経て導入の運びとなりました。



また、ハラール・フードのメニューには、イスラム系留学生と大学生協が協働で作成した「ハラール推奨マーク」を表示するなど、留学生の学食利用の便に役立てることとしています。

後期の授業開始日である10月2日（月）から、吉田キャンパス第1学生食堂「ボーノ」と常盤キャンパスの学生食堂で本格的な提供が開始します。

なお、礼拝場所についても、色々な宗教の学生が利用できるよう、国際交流会館1階の談話室を整備しました。

本年5月1日現在、本学の留学生数は403名（うちイスラム圏から86名）となっており、さらなる国際化の進展が期待されます。

提供メニュー

チキンイエローカレー	450円	週替
チキングリーンカレー	450円	週替
チキンマッサマンカレー	450円	週替
ハラールチキンオープン焼き	108円	毎日



○ 国際総合科学部交換留学生による業務体験研修を行いました

国際総合科学部では、JR西日本広島支社において、交換留学生3名による業務体験研修を8月4日（金）～23日（水）までの期間のうち10日間実施しました。

これは外国人交換留学生が日本企業の高い技術・サービスに触れることにより、日本企業が育んできた企業文化や日本の社会の一部を理解し、経験を積むことを目的として、今年度初めて実施しました。



研修では、SLやまぐち号乗車体験、駅業務体験、観光資源の活用及び地域活性化に向けたディスカッション等を行い、留学生にとって、充実したカリキュラムとなりました。

最終日の報告会では、「山口県におけるインバウンドに対する提言」として、外国人観光客に対するおもてなしの観点からの提案を積極的に行いました。提案の中では、「グッズ」「写真スポット」「SNSの利用」がキーワードとなっており、報告会に参加したJR西日本広島支社山口地域鉄道部長を始めとする受入側の参加者および糸長雅弘国際総合科学部長を始めとする大学側の参加者は熱心に聞き入っていました。

研修に参加した留学生は、「日本の企業の普段は目に見えない仕事への取り組み」「山口の観光を高めていくための姿勢」を学ぶことが出来たと語りました。

今回の業務体験研修は、本学部3年生が後期から実施するプロジェクト課題解決研究（PBL）とリンクするところもあり、本学部の養成する人材像「課題解決のためのチームにおいて、様々な分野や国籍の人々のアイデアや意見を調整し一つにまとめ上げることが出

来る人材」にも合致し、これを機会に学部学生だけでなく、交換留学生の業務体験研修も充実していく予定です。



2. 留学促進のための体制整備

(1) 留学生宿舎について

海外から学生を招いた教育プログラム等実施の際に、宿舎の確保などで交流人数が制限されることのないよう、近隣のアパートや旅館組合と交渉を行い、安価に滞在できる宿泊先を一定規模確保し、留学生受入れ体制を整備した。

(2) 在籍学生の海外渡航状況について

山口大学海外交流学生の定義を定め、部局担当や学生に周知することで、在籍学生の海外渡航及び海外学生の状況を確実に把握し本学留学生としての支援対象者を明確にするとともに、平成 29 年 3 月の文部科学省方針に従った学生への海外渡航指導（留学保険の加入義務付け等）が徹底されるよう、制度設計を行った。また、日本人学生の海外渡航に関する安否確認のための情報提出を WEB 化するなどして情報把握の改善を図った。

3. 留学促進のための広報活動について

(1) 各国在学間や民間企業・地方自治体への広報活動

タイ、バングラデシュ、インドネシア等各国在外公館や民間企業・地方自治体に対して、本学の国際交流状況について説明を行うとともに、新たな留学生獲得等に関する情報や地域の国際化、企業の海外展開に関連した情報を得ることで、今後の大学国際化の具体的な方策と関係各署との連携を構築することができた。一例として、発展途上国における高度外国人材の育成・還流を目的とした JICA イノベーティブ・アジア事業への本学の参加が決定し、平成 30 年度に最大 4 名の学生が本学修士・博士前期課程に入学予定である。

(2) 国際総合科学部 1 期生による留学帰国報告会

2017 年 11 月には、留学への意識の向上とそのための準備に関する情報提供のため、国際総合科学部 1 期生による留学帰国報告会を実施した。報告会では代表学生からの留学報告に加えて、各留学先大学の個別相談ブースを国際総合科学部学生及び協定校からの受入留学生が協力して設置・運営し、他の留学希望学生への説明を行うなどして、本学学生に向けた留学広報に努めた。

(3) 重点連携大学事業

本学の国際交流促進のためのプログラムである重点連携大学事業の評価項目に教育的な観点を含めることで、重点連携大学との研究交流と連動して学生交流も促進されるよう制度の見直しを行った。また、重点連携大学プロジェクトを紹介するページを新たにWEB上に整備し、海外大学との研究連携を軸とした本学の研究交流活動について情報発信すると共に、重点連携大学・重点拠点国出身の学生に適用される大学院入学金不徴収制度についてもチラシ配付するなどして積極的に広報を行った。



入学料不徴収制度についての広報チラシ

4. 留学生センターにおける学生派遣及び受入について

留学生センターにおける H29 年度学生派遣及び受入実績は以下のとおりであった。

・平成 29 年度海外短期語学研修

夏期（2017 年 8 月から 3 週間または 4 週間）

リジャイナ大学 9 名，ロンドン大学 1 名，北京師範大学 1 名

春期（2018 年 2 月から 3 週間または 4 週間）

リジャイナ大学 3 名，ニューカッスル大学 3 名，韓国外国語大学校 1 名

・平成 29 年度日本語・日本文化研修プログラム

2017 年 7 月 7 日～8 月 3 日の期間で 25 名の受入を行った。

第3章 2016年度の学術研究部門の国際交流活動

1. 独立行政法人日本学術振興会助成

(1) 二国間交流事業

独立行政法人日本学術振興会が実施する、海外の学術振興機関（対応機関）と学術の国際協力に関する合意に基づき行う事業。個々の研究者交流を発展させた二国間の研究チームの持続的ネットワーク形成を目指し、日本の大学等の優れた研究者（若手研究者を含む）が相手国の研究者と協力して行う共同研究・セミナーの実施に要する経費の支援を行う。

①【研究課題】 がんの転移・再発プログラムを抑制する革新的がん遺伝子治療法の開発

【研究期間】 平成28年4月1日～平成30年3月31日

【山口大学実施部局】 大学院医学系研究科

【山口大学担当教員】 中村 教泰（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】 University of California Los Angeles(UCLA)

（アメリカ）

【相手方研究代表者】 Fuyuhiko Tamanai（教授）

【事業概要】

日米の各研究者の持つ固有の要素技術を融合させることにより、転移再発に関わるがんプログラムを抑える革新的がん遺伝子治療法を開発することを目的としている。近年 RNA 干渉を応用してがんの進展に重要な遺伝子の発現を阻止する遺伝子治療の開発が進められているが、本研究では RNA 干渉によるがん治療にナノ粒子を応用する。本学の中村教授らが開発した新規ナノ粒子と UCLA の Tamanai 教授らが開発した siRNA を用いて、新規のナノ粒子を作製し、がん患者に対して安全かつ効果的な治療法を開発を行う。

【得られた成果】

2017年度は、革新的遺伝子治療法の確立のため、遺伝子のデリバリーに有用なナノ粒子の開発を進めることができた。また粒子の構造の改変により細胞への取込みの変化や、生体内での分布に大きな変化を示す粒子を発見した。さらに粒子の表面構造の多様な改変法も開発することができた。

年3回 UCLA を含む南カリフォルニア研究所から研究協力者を招へいし、本学で講演会を実施した。また2017年7月には本学の教授4名と医学部生1名が UCLA を含む南カリフォルニア研究所でそれぞれシンポジウムに参加し、発表を行うとともに、11月には研究代表者である本学の中村教授が南カリフォルニア研究所にて講演を行った。共同研究者に加えて若手研究者の交流も行うことができた。また国際共著論文を1件発表したほか、13件の口頭発表及び1件のポスター発表を行った。

②【研究課題】分子性金属酸化物と π 有機分子の電子系融合による分子性ナノ電子材料の創出

【研究期間】平成 28 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

【山口大学実施部局】大学院創成科学研究科（理学系）

【山口大学担当教員】綱島 亮（准教授）

【相手方機関名（国・地域名）】グラスゴー大学（イギリス）

【相手方研究代表者】Leroy Cronin（教授）

【事業概要】

分子性金属酸化物と π 電子系有機化合物をハイブリッドすることで、分子性金属酸化物の特異な分子形状に由来した電子-スピン状態を電気-磁気機能として引き出し、次世代エレクトロニクス材料の基盤を形成することを目的にした日英共同研究を行う。

【得られた成果】

今回新たに、混合原子価な分子性金属酸化物への有機分子修飾補を開拓し、得られた化合物は温度に応じて金属酸化物骨格が変形する現象を見出した。この金属酸化物における強誘電性発現のメカニズムを分子断片で見出すことに成功したのは国内外で初めてのことであり、次世代強誘電材料創成への高いポテンシャルを提示した。

2017 年度はインドや中国において口頭発表を 3 件行い、ポスター発表も 3 件行った。また若手研究者を含め延べ 8 名を研究相手大学や国際会議で海外に派遣した。

(2) 外国人特別研究員

独立行政法人日本学術振興会が実施する、諸外国の若手研究者に対し、日本の大学等において日本側受入研究者の指導のもとに共同して研究に従事する機会を提供する事業。個々の外国人特別研究員の研究の進展を援助するとともに日本及び諸外国における学術の進展に資することを目的とする。

①【研究課題】メタンハイドレート長期生産時における海底貯留層変形の数値解析

【研究期間】平成 27 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

【山口大学実施部局】大学院創成科学研究科（工学系）

【山口大学担当教員】兵動 正幸（特命教授）

【被招へい者旧所属機関名（国・地域名）】広島大学大学院（日本）

【被招へい者】WU YANG

【事業概要】

メタンハイドレートは、種々の粒度分布を持つ地盤の中に存在しており、メタンハイドレートによる団結力がそれらの土に及ぼす影響を知ることと、生産時の分解により、どのように団結力が消失していくのかを知ることが重要なことである。本研究では、ま

ず種々の細粒分を有する砂にメタンハイドレートを生成させ、三軸圧縮試験を行った。

【得られた成果】

細粒分含有率の高いホスト砂ほどメタンハイドレートによる固結力が高くなるという知見が得られ、またガラスビーズを用いた実験も行った結果、表面の滑らかなガラスビーズに対する団結力は、ひずみの増加に伴い急速に消失することが明らかとなった。これらの実験結果を用いて簡易な構成モデルを作成し、さらに円筒模型実験装置を用いてガスハイドレート生産実験を行った。

2017年度は国際共著論文を5件発表し、アメリカ及び韓国で開催された国際学会で発表を行った。

②【研究課題】胎児期新生児の心肺・行動計測システムと介入法の開発

【研究期間】平成28年4月1日～平成30年3月31日

【山口大学実施部局】大学院創成科学研究科（工学系）

【山口大学担当教員】小柴 満美子（准教授）

【被招へい者旧所属機関名（国・地域名）】山口大学理工学研究科（日本）

【被招へい者】TAO TING

【事業内容】

長時間継続的に、胎児期新生児の心肺・行動情報を総合的に計測する装置を開発するため、生体音及び環境音を微細に捉えることを目的とする装置を、新生児が滞在する保育器内に設置し、継続記録を試みた。

【得られた成果】

2017年度に特に焦点を当てたのは、生体に影響を与える可能性のある治療環境音である。特に人工呼吸補助装置は出生週数が低いほど利用率の高い治療機器であり、一般的な生体が触れる可能性の低い長期持続的な特異音環境の可能性として、その音供給期間のパターンの可視化を試みた結果、治療環境の音についての数日期間における状態変化を可視化することができた。

2017年度は1件の雑誌論文を発表したほか、2件の国際学会及び3件の招待講演にて発表を行った。

(3) 外国人招へい研究者

独立行政法人日本学術振興会が実施する、諸外国の優秀な研究者を招へいし、我が国の研究者との共同研究、討議、意見交換等を行う機会を提供することにより、外国人研究者の研究の進展を支援すると同時に、外国人研究者との研究協力関係を通じて、我が国の学術研究の推進及び国際化の進展を図ることを目的とした事業。

①【研究課題】固体中の動的静電場と分子状金属酸化物の原子価揺動の相互作用に伴う新奇物性の創出

【研究期間】平成30年3月11日～4月4日

【山口大学実施部局】大学院創成科学研究科（理学系）

【山口大学担当教員】綱島 亮（准教授）

【被招へい者旧所属機関名（国・地域名）】グラスゴー大学（イギリス）

【被招へい者】LONG Deliang

【事業概要】

被招へい者である Long 博士は機能性 POM（分子性金属酸化物）合成の第一人者であり、数多くの新奇 POM を報告してきた。Long 博士が合成のノウハウを有する POM を、綱島研究室が開拓しているカチオン設計と融合し、共同で物質探索を行うことで、導電性・磁性・誘電性などの機能を有する分子材料の開拓を進める。

【得られた成果】

Long 博士から今後の共同研究展開に必要な POM 化合物の合成法や試料提供を受けたほか、同博士による POM に関する講演・講義を実施した。

②【研究課題】バイオクロマトグラフィープロセス評価方法の開発

【研究期間】平成30年2月26日～4月6日

【山口大学実施部局】大学院創成科学研究科（工学系）

【山口大学担当教員】山本 修一（教授）

【被招へい者旧所属機関名（国・地域名）】バージニア大学

【被招へい者】Giorgio Carta

【事業概要】

クロマトグラフィーの実験データ解析を実施する。博士課程前期学生と後期学生が論文のテーマに設定しており、適切な実験と解析を被招へい者である Giorgio Carta 教授と議論しながら進めていく。具体的には多孔性充填剤のみならず一体型分離剤であるモノリスにも適用可能なプロセス特性評価方法を開発するとともに、大学院特別講義を実施する。

【得られた成果】

研究課題に対し、特に現在注目されている連続操作についての適正な評価方法が確立されていないことと、その必要性について再確認することができた。

またこのテーマに関連してセミナー或いは学会発表を行ったほか、バイオクロマトグラフィープロセスを実施している製薬企業や、バイオクロマトグラフィー分離剤を開発している化学会社を訪問し、施設見学とともに研究討論を実施した。

(4) 論文博士号取得希望者に対する支援事業

独立行政法人日本学術振興会が実施する、アジア・アフリカ諸国の優れた研究者が、日本の大学において大学院の課程によらず論文提出によって博士の学位を取得できるように支援する事業。

【研究課題】 衛星リモートセンシングを使用したインドネシア降雨の研究

【研究期間】 平成 29 年 4 月 1 日～平成 32 年 3 月 31 日

【山口大学実施部局】 大学院創成科学研究科（工学系）

【山口大学担当教員】 小河原 加久治（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】 ウダヤナ大学（インドネシア）

【相手方参加者】 As Syakur Abd. Rahman（講師）

【事業概要】

インドネシア地域における熱帯降雨観測衛星 TRMM のデータを解析し、特にスマトラ島周辺の降雨日変化について研究を行う。

2017 年度は、As Syakur Abd. Rahman 講師を 73 日間（2017.7.19-9.29）受け入れ、研究指導を行うとともに、本学の今岡啓治准教授（大学情報機構）を 2018 年 3 月にインドネシアに派遣した。

【得られた成果】

今岡准教授派遣時には、論博研究者の所属であるウダヤナ大学海洋水産学部や、関連するリモートセンシング・海洋科学センターを訪問し、研究状況を確認するとともに、スマトラ島周辺の降雨日変化に関する解析結果について議論を行い、次年度に学術論文雑誌に投稿する内容について素案をまとめた。

(5) 研究拠点形成事業

独立行政法人日本学術振興会が実施する、日本において先端的かつ国際的に重要と認められる研究課題、または地域における諸課題解決に資する研究課題について、中核的な研究交流拠点の構築とともに、次世代の中核を担う若手研究者の育成を目的とする事業。

① 【研究課題】 バイオ新領域を拓く熱帯性環境微生物の国際研究拠点形成

【研究期間】 平成 26 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

【山口大学中心実施部局】 大学院創成科学研究科（農学系）

【山口大学担当教員】 山田 守（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】 カセサート大学 [タイ側拠点機関]、ブラパ大学、チェンマイ大学、チュラロンコン大学、コンケン大学、モンクット王技術大学ラドクラバング校、モンクット王工科大学トンブリ校、マエファーラン大学、マハサラカン大学、メイジョ大学、マヒドン大学、ナレスアン大学、フラモンクットクラオ医科大学、ソククラ王子大学、ラジャマンガラ工科大学タウンオク、ラジャマンガラ工科大学イサン、ラン

パイパニ教育大学, ラムカンヘン大学, シーナカリンウィロット大学, スラナリー工科大学, タマサート大学, タクシン大学, ウボンラチャタニ大学, パヤオ大学, ワライラク大学, タイ科学技術研究所, バイオテック, 生物多様性経済開発庁 (以上すべてタイ), ベルリンボイト工科大学 [ドイツ側拠点機関], カントー大学 [ベトナム側拠点機関], ハノイ国家大学, ホーチミン市技術大学, タイドー大学, タンタオ大学, ベトナム国家農業大学, ニュエンタットン大学, 科学技術ベトナムアカデミーバイオテクノロジー研究所 (以上すべてベトナム), ブラビジャヤ大学 [インドネシア側拠点機関], マタラム大学, ハイルン大学, ベテランスラバヤ大学, ガジャマダ大学, 技術の評価と応用庁, インドネシア大学 (以上すべてインドネシア), ラオス国立大学 [ラオス側拠点機関]

【事業概要】

本学は拠点大学交流事業 (平成 10-19 年度) やアジア研究教育拠点事業 (平成 20-24 年度) において熱帯性環境微生物資源 (遺伝資源) に関する国際共同研究を実施し, 「耐熱性微生物」の潜在能力開発や次世代型省エネ「高温発酵技術」の基盤技術構築など多くの先導的研究成果を挙げてきた。本事業では, 従来の日・タイの拠点大学に, 欧州や ASEAN 諸国の 4 拠点大学と 1 協力大学を加え, ゲノム解析を主体とした基礎微生物学及び生態学研究から技術開発研究までに亘る, さらに若手研究者の実践的教育をも含めた, 「熱帯性環境微生物」を対象とする世界水準の先端研究拠点を目指す。

【得られた成果】

1. 研究協力体制の構築状況

各共同研究グループから提出された年度計画に基づいて, 6月末までに研究者交流の候補者や各セミナー参加候補者を7カ国のコーディネーター間でメールによって相談し決定した。サテライトセミナー時にコーディネーター会議を開催し, 事業計画について意見交換を行うと同時に, 各国の問題点等を共有し対策を協議した。メンバー数の多い日本やタイでは, 国内の運営委員会を頻繁に開催し, スムーズな事業運営に務めた。初年度からしっかりと研究協力体制を整え, 円滑に事業を進めている。

直接的な研究交流はセミナーや学会への参加, セミナーや学会への参加と合わせた共同研究, 共同研究のみの3つの形式で実施した。日本からタイ, ベトナム, インドネシア, ドイツにそれぞれ93名, 1名, 5名, 7名派遣し, 一方でタイ, ベトナム, インドネシア, ラオスからそれぞれ95名, 9名, 17名, 4名を受け入れた。この他に日本以外の国の間で派遣・受入を10件程度実施した。

2. 学術面の成果

共同研究を 60 件実施し, H28 年度頃から多くの共同研究成果を学術論文として発表しているほか, サテライトセミナーを含む 4 件のセミナーを開催した。加えて, 世

界的拠点形成に向けて本事業に加わったインドネシア、ドイツ、イギリスとの交流の強化を進め、特にインドネシアとは、インドネシアの研究・技術・高等教育省

(RISTEKDIKTI) の支援で本事業関係者を含めインドネシアから 20 名の研究者が 2 ヶ月間日本を訪問し、それぞれの訪問先で共同研究を実施した。加えて同国とは、タイやラオスとともに、e-ASIA 共同研究 (JST 事業) としてバイオマスからの有用物質生産開発を開始した。ドイツとは第 4 回サテライトセミナーを国際シンポジウムとして開催し、本事業メンバーに加えて、ベルリン工科大学等の大学や研究機関からの発表があり、関連分野のドイツ研究者と広く交流を行い、イギリスとはシミュレーション解析等の共同研究を実施した。

本研究交流事業により発表された論文等

(1)平成 29 年度に学術雑誌等に発表した論文・著書	42 本
うち相手国参加研究者との共著	30 本
(2)平成 29 年度の国際会議における発表	42 件
うち、相手国参加研究者との共同発表	21 件
(3)平成 29 年度の国内学会・シンポジウム等における発表	33 件
うち、相手国参加研究者との共同発表	16 件

3. 若手研究者育成

第 13 回若手研究者セミナーを山口市で開催し、日本人若手研究者 42 名、外国人若手研究者 43 名が参加した。また JASSO 短期留学奨学金事業参加学生のために臨時に第 14 回若手研究者セミナーを山口大学で開催した。本セミナーは、日本人及び留学生の大学院学生が中心となって企画・運営し、参加する全ての若手研究者が自身の研究成果等を英語で発表することから、若手研究者育成にとどまらず、将来的な研究ネットワーク形成に繋がる重要なものと位置づけている。また、JASSO の SSSV プロジェクトにより、タイやインドネシアから 16 名の大学院生や学部学生を本学で 2 ヶ月間受け入れたほか、カウンターパートの大学で開催された国際学会に大学院生や学部学生を派遣する等若手研究者の交流も活発に行われた。

②【研究課題】衛星リモートセンシングによる防災・環境に関する

東南アジア研究・教育拠点の構築

【研究期間】平成 27 年 4 月 1 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日

【山口大学中心実施部局】大学院創成科学研究科 (工学系)

【山口大学担当教員】三浦房紀 (特命教授)

【相手方機関名 (国・地域名)】ウダヤナ大学 [インドネシア側拠点機関]、インドネシア航空宇宙研究庁、技術評価応用庁、国家防災庁、気象気候物理庁、測量地図庁、海洋水産庁、ブラビジャヤ大学 (以上すべてインドネシア)、ハノイ農業大学 [ベトナム側拠

点機関], チュラロンコン大学 [タイ側拠点機関], カセサート大学, アジア工科大学 (以上すべてタイ), 東ティモール大学 [東ティモール側拠点機関]

【事業概要】

本事業では, 山口大学がウダヤナ大学と連携して構築した, 大学院連携システム (インターネットを利用した同時講義システム及び 12 科目の講義) を利用し, 今後の応用への期待が大きい衛星リモートセンシング技術の防災・減災, 環境への応用研究の実施と専門家の育成を主眼とする『東南アジア研究教育拠点の構築』を目標とする。

具体的には, 以下の 2 つの研究領域を対象とする。

(1)地震, 風水害, 火山に起因する

①土砂災害, ②構造物被害, ③津波, ④洪水, ⑤高潮, ⑥地盤変状などの解析

(2)「海洋環境・気象」と「災害」との関係の解析

最終年度の H29 年度は, 情報科学を導入した衛星画像解析手法の研究を, 豪雨による土砂災害を対象に試みた。

【得られた成果】

1. 研究協力体制の構築

拠点形成を目指すために「応用衛星リモートセンシング研究センター, Center for Research and Application of Satellite Remote Sensing 【YUCARS】」の体制を整えた。対外的には, これまでの 2 年間で構築してきた研究協力体制をもとに研究を一層具体的に遂行する。また, 既存の山口大学及びウダヤナ大学との研究協力体制に, 10 月に実施した国際シンポジウムにおいて, インドネシア以外の相手国の拠点機関の参画を実現し, 拡充を図った。

さらにはこの拠点ネットワークを中心にして, 南米をはじめ, APEC を念頭に置いた研究協力体制の構築を始めた。H29 年度はペルーを訪問し, 衛星データ利用を前提にした国際協力を進めるための交流協定を, 2 大学 1 機関と締結した。

特にペルーは 3 月, 4 月に大規模な豪雨災害が発生し, ペルー国家防災庁とペルー航空宇宙局 (CONIDA) と連携し, 国際災害チャータから提供された衛星データを解析し, 国家防災庁, JICA ペルー事務所, 在ペルー日本大使館に送付した。

2. 学術面の成果

3 つの共同研究グループそれぞれの担当者がインドネシアへ出張し, 共同研究の実施, その成果の共著論文作成の打ち合わせ, さらに本学への留学生派遣の可能性について検討を行った。これによって, 実質的な国際共同研究を一層進めるとともに, 国際共同研究を通じた人材育成を行った。

また新しい研究フロントを開拓するため各種事業等に申請した結果, 文部科学省の「宇宙航空科学技術推進委託費」(大学院博士課程の国際連携による衛星リモートセ

ンシング人材育成)が認められた。さらには新しい研究フロントとして、内閣府の「先進的な宇宙利用モデル実証プログラム」(衛星ビッグデータを活用した里山黄金郷創出事業～竹林から～)が産官学の新しい取り組みとして認められた。

本研究交流事業により発表された論文等

(1)平成 29 年度に学術雑誌等に発表した論文・著書	11 本
うち相手国参加研究者との共著	9 本
(2)平成 29 年度の国際会議における発表	8 件
うち相手国参加研究者との共同発表	6 件
(3)平成 29 年度の国内学会・シンポジウム等における発表	5 件
うち相手国参加研究者との共同発表	0 件

3. 若手研究者育成

若手研究者育成に関する専門知識を含む研究能力の向上、及び、国際舞台におけるコミュニケーションスキルの向上を図った。具体的には、博士後期課程の学生の国際会議への出席や研究発表の支援のほか、博士後期課程の学生を研究者とともに海外に派遣し、研究打合せや現地調査を海外の研究者と一緒にを行う体験を持たせた。また、既存の遠隔講義システムや SKYPE を利用して、参加国の大学間で、研究に関するディスカッションを行った。H29 年度はウダヤナ大学との博士前期課程のダブル・ディグリー・プログラムの一環で 2 名を山口大学に受け入れたほか、博士後期課程の学生 2 名が博士号(博士(工学))を取得した。さらに現在 4 名の博士後期課程の学生が学位取得に向けて研究活動を行っている。

4. その他

YUCARS 設置の直後に、JAXA 西日本防災利用研究センターが山口県宇部市に設置された。山口県はこれを契機に、衛星データを防災だけでなく、教育や産業界に利用するための活動を開始した。具体的には、衛星データ解析技術研究会の活動、宇宙教室の開催や防災情報システムの開発等が行われており、YUCARS のメンバーが講師を務める等、学術的な支援を行っている。

第4章 2017年度の各部局での国際交流活動

人文学部

1. 国際会議・講演会等の実施

2. 学生海外研修の実施

- ・人文学部海外調査研修：東呉大学（台湾）に5名派遣（2018.3.12-16）

3. 海外学生受け入れプログラム等の実施

教育学部

1. 国際会議・講演会等の実施

- ・国際交流協定や「JEAI」組織運営，平成30年度の「東亜文明アイデンティティ」国際シンポジウム開催協議についての国際会議：淡江大学（台湾）（2017.11.3）

2. 学生海外研修の実施

- ・理科教育に関する現地支援活動：カンボジア，シェムリアップ州教員養成校並びに現地小学校（カンボジア）に5名派遣（2018.3.10-18）
- ・国際理解教育教室主催の異文化体験研修：鄧公小学校や淡江大学等（台湾）に23名派遣（2017.8.28-9.7）
- ・国際体験実習：海外の学校や史跡，国連機関等（オーストラリア・ポーランド・台湾）に23名派遣（2017.8.28-9.7）

3. 海外学生受け入れプログラム等の実施

- ・JICA 青年研修事業：理科と数学の有志が，アフリカ12ヵ国から18名を受入（2017.9.24-10.14）
- ・ホストファミリーとして，ホームステイの受入：香港樹仁大学（香港）から2名受入（2017.6.24-25）
- ・山口大学教育学部における香港樹仁大学生との文化交流プログラム：香港樹仁大学（香港）から13名受入（2017.6.24-29）

4. その他

- ・台湾 国立清華大学 教育学院／教職センターより現職教員1名を含む4名が来日し，山口市（4校）及び萩市（1校）の小学校において，校長のリーダーシップに関する訪問調査を実施。（2018.3.6-11）

経済学部

1. 国際会議・講演会等の実施

- ・平成 29 年度 観光におけるイノベーション・シンポジウム「日本におけるコミュニティ観光の可能性」：カルカッタ大学（インド）教授を講師として招へい（2018.1.19）
- ・平成 29 年度寄付講座（ワンアジア財団）：外国人講師 5 名（バングラデシュ 2，インドネシア 1，ラオス 1，タイ 1）を招へい

2. 学生海外研修の実施

- ・公共管理コース所属学生等派遣：東部国際大学，ベカメックス東急等（ベトナム）に 8 名派遣（2018.3.13-17）
- ・在京中国大使館の青年交流プログラム：北京，成都等（中国）に 20 名派遣（2017.8.26-9.2）
- ・JICE の架け橋プログラム：（米国）に経済学部より 6 名派遣（2018.2.10-17）
- ・職業会計人コース学生派遣（旅費等個人負担）：米国に 2 名派遣（2018.3.8-12）
- ・日中両国学生交流：10 名派遣（2018.3.26-29）

3. 海外学生受け入れプログラム等の実施

- ・JICA JDS プログラム：18 名を修士課程（経済学研究科公共管理コース）2 年間に受入
- ・JICA PEACE プログラム：4 名を修士課程（経済学研究科公共管理コース）2 年間に受入
- ・JICA アベ・イニシアティブプログラム：3 名を修士課程（経済学研究科公共管理コース）2 年間，2 名を研究生として受入

理学部

1. 国際会議・講演会等の実施

- ・Mathematical Progress in Expressive Image Synthesis (MEIS2017)【九州大学】（2017.11.16-19）
- ・Workshop on Algebraic Analysis in Yamaguchi - D-module, microlocal analysis, summability【山口市湯田】（2017.11.17-20）
- ・International Symposium and Workshop on Karst Science and Geopark【美祢市秋芳館】（2018.3.9-12）

2. 学生海外研修の実施

- ・理学部学生海外派遣プログラム：カンザス大学（米国）に 1 名（大学院生）派遣（2017.8.28-11.28）

- ・理学部学生海外派遣プログラム：台湾師範大学（台湾）に7名（大学院生：5名，学部生2名）派遣（2018.3.4-11）
- ・理学部学生海外派遣プログラム：マヒドン大学（タイ）に4名（学部生）派遣（2018.3.18-29）

3. 海外学生受け入れプログラム等の実施

- ・理学部サマープログラム：台湾大学（台湾）から2名，台湾師範大学（台湾）から9名，湖州師範学院（中国）から3名受入（2017.8.27-9.2）

医学部

1. 国際会議・講演会等の実施

- ・講演会「Antibody engineering toward developing cancer therapeutics」：City of Hope（米国）の山口陽子教授を講演者として招へい【山口大学小串キャンパス】（2017.6.5）
- ・Joint symposium【City of Hope Cancer Center (COH)(米国)】（2017.8.1）
- ・CANCER NANOTECHNOLOGY 2017 SUMMEY SYMPOSIUM【Jonsson Comprehensive Cancer Center of (UCLA) (米国)】（2017.8.3）
- ・講演会「癌のナノ治療とプレシジョンメディシン」：カリフォルニア大学ロサンゼルス校の玉野井冬彦教授を講演者として招へい【山口大学小串キャンパス】（2017.11.27）
- ・講演会「City of Hope and the Beckman Research Institute. New Technology Platforms in Oncology」：City of Hope（米国）のDavid Horne 副所長を講演者として招へい【山口大学小串キャンパス】（2018.1.9）

2. 学生海外研修の実施

- ・自己開発コース（医学科3年生）の学生派遣：ハーバード大学ジョスリン糖尿病センター（米国）に2名，ミシガン大学医学部（米国）に3名，ワシントン大学（米国）に1名，イリノイ大学（米国）に1名派遣（2017.7月下旬-12月下旬）
- ・山口大学医学部保健学科とチェンマイ大学看護学部による学生交流プログラム：チェンマイ大学（タイ）に2名派遣（2017.7.16-23）
- ・山口大学大学院医学系研究科保健学専攻とチェンマイ大学検査学部による学生交流プログラム：チェンマイ大学（タイ）に2名派遣（2017.8.31-9.9）
- ・Joint symposium in City of Hope Cancer Center (COH)（米国）と交流活動：City of Hope（米国）に1名派遣（2017.7.31-8.1）

3. 海外学生受け入れプログラム等の実施

- ・山口大学医学部保健学科とチェンマイ大学看護学部による学生交流プログラム：チェンマ

イ大学（タイ）から4名受入（2017.7.16-23）

・山口大学大学院医学系研究科保険学専攻とチェンマイ大学検査学部による学生交流プログラム：チェンマイ大学（タイ）1名受入（2017.8.1-9.30）

・医学部学生臨床実習プログラム：慶尚大学（韓国）から2名受入（2018.1.22-2.16）

工学部

1. 国際会議・講演会等の実施

・第61回常盤台コロキウム：台湾師範大学（台湾）の教員招へい【山口大学常盤キャンパス】（2017.7.6）

・第5回 SP!ED プログラム【江蘇大学（中国）】（2017.8.17-28）

・Joint Conference 2017 on MoU between Yamaguchi and Dumlupinar Universities：ダニルピナー大学（トルコ）から教員を招へい【山口大学常盤キャンパス】（2017.8.25）

・第9回研究発表セミナー：工学部教員派遣【群山大学校（韓国）】（2017.9.7-9）

・第4回山口大学・サラゴサ大学（スペイン）・新リスボン大学（ポルトガル）国際共同シンポジウム【サラゴサ大学（スペイン）】（2017.10.19-20）

・第4回研究発表セミナー：忠北大学校（韓国）から教員を招へい【山口大学常盤キャンパス】（2017.10.30-1.1）

・大学生創成工学デザイン競技会(CEDC)2017, 創成教育研究国際会議(ICLARE)2017【山口大学常盤キャンパス】（2017.12.15-16）

・ジョイントシンポジウム：クルクシェトラ工科大学（インド）から教員を招へい【山口大学常盤キャンパス】（2018.1.22）

・The 10th Choshu-London Symposium in Chemistry：ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（英国）から教員を招へい【山口大学常盤キャンパス】（2018.3.15）

2. 学生海外研修の実施

・グローバル技術者涵養のための海外研修プログラムで42名派遣

・グローバル技術者養成のための海外研修プログラムで29名派遣

・グローバル技術者育成のための海外研修プログラムで30名派遣

3. 海外学生受け入れプログラム等の実施

・交流協定に基づく短期インターンシップ：カセサート大学（タイ）から8名受入（2017.6.1-7.28）

・山口大学-ウボンラチャタニ大学遺伝子工学技術プログラム：でウボンラチャタニ大学（タイ）から2名受入（2017.8.1-10.30）

・日本の優れた情報処理技術，特にリモートセンシング技術に関する学習と体験（JST さく

- らサイエンスプラン) : コンケン大学 (タイ) から 10 名受入 (2017.11.2-18)
- ・生物工学国際ネットワーク形成のための人材育成プログラム: チュラロンコン大学 (タイ) から 1 名受入 (2017.11.7-2018.2.7)
 - ・ウダヤナ大学との学生交流プログラム: ウダヤナ大学 (インドネシア) から 2 名受入 (2017.12.1-8)
 - ・山口大学-シーナカリンウィロート大学イースト技術プログラム: シーナカリンウィロート大学 (タイ) から 1 名受入 (2018.1.15-3.20)

4. その他

・ Erasmus+プログラムに基づき教職員の派遣・受入を実施。派遣・受入先の大学では講義も行った。

派遣:

- 新リスボン大学 (ポルトガル) 教員1名 (2017.5.29-6.2)
- 新リスボン大学 (ポルトガル) 教員1名, 職員1名 (2017.6.19-23)
- 新リスボン大学 (ポルトガル) 教員1名 (2018.3.5-10)

受入:

- シェヒル大学 (トルコ) 職員1名 (2017.5.15-19)
- 新リスボン大学 (ポルトガル) 教員1名, 職員1名 (2017.5.29-6.2)
- 新リスボン大学 (ポルトガル) 職員3名, シェヒル大学 (トルコ) 教員1名 (2017.7.3-7)

・ JICA CADEFEST2事業に基づき教職員の派遣・研修受入・留学受入を実施。

派遣:

- 東ティモール国立大学 (東ティモール) 教員1名 (2017.7.29-8.5)
- 東ティモール国立大学 (東ティモール) 教員1名 (2017.8.12-26)
- 東ティモール国立大学 (東ティモール) 教員1名 (2017.8.22-29)
- 東ティモール国立大学 (東ティモール) 教員2名 (2017.11.19-25)

研修受入:

- 東ティモール国立大学 (東ティモール) 教員2名 (2017.5.26-6.30)

農学部

1. 国際会議・講演会等の実施

- ・ Fer.VAAP (CCP 事業) 【コンケン (タイ)】 (2017.7.26-27)
- ・ JSPS-NRCT-JAAT Symposium (CCP 事業) 【バンコク (タイ)】 (2017年8月23日)
- ・ CCP Satellite Seminar (CCP 事業) 【ベルリン (ドイツ)】 (2017.9.4-5)
- ・ Thailand Research EXPO (e-ASIA 関連事業) 【バンコク (タイ)】 (2017.8.26)

- ・第4回重点連携大学セミナー【山口大学吉田キャンパス】(2017.10.30)
- ・第13回若手研究者セミナー【山口県セミナーパーク】(2017.11.18-19)
- ・第14回若手研究者セミナー【山口大学農学部】(2018.3.6)

2. 学生海外研修の実施

・JASSO 海外留学支援制度(協定派遣)「熱帯性環境生物資源開発国際ネットワーク形成のための人材育成プログラム」:

カセサート大学(タイ)4名派遣(2017.8.21-9.25)

チェンマイ大学(タイ)2名派遣(2017.8.24-9.8)

チュラロンコン大学(タイ)3名派遣(2017.8.24-9.25)

コンケン大学(タイ)1名派遣(2017.8.21-9.19)

シーナカリンウィロート大学(タイ)1名派遣(2017.9.10-10.13)

ガジャマダ大学(インドネシア)3名派遣(2017.8.24-9.8)

3. 海外学生受け入れプログラム等の実施

・JASSO 海外留学支援制度(協定派遣)「熱帯性環境生物資源開発国際ネットワーク形成のための人材育成プログラム」:

カセサート大学(タイ)2名受入(2018.1.22-3.10)

チェンマイ大学(タイ)2名受入(2018.1.22-3.11)

コンケン大学(タイ)2名受入(2018.1.22-3.10)

メージョー大学(タイ)1名受入(2018.1.22-3.10)

ガジャマダ大学(インドネシア)2名受入(2018.1.22-3.10)

ブラビジャヤ大学(インドネシア)1名受入(2018.2.1-4.17)

国立中興大学(台湾)1名受入(2018.1.22-3.10)

ジャハンギナガール大学(バングラデシュ)1名受入(2018.1.22-3.10)

共同獣医学部

1. 国際会議・講演会等の実施

2. 学生海外研修の実施

・ボーダレス獣医学教育を目指したアジア獣医学教育体験研修プログラム:中興大学(台湾)に2名派遣(2017.8.14-28)

・国際水準を満たす臨床獣医学教育のための研修派遣プログラム:ジョージア大学(米国)に2名派遣(2018.8.12-25)

3. 海外学生受け入れプログラム等の実施

- ・平成 29 年度台湾中興大学学生講義・実習プログラム：中興大学（台湾）から 2 名受入（2018.8.21-9.3）
- ・ウイルスの診断法の研修ならびに日本の獣医学の現場を研修：カセサート大学（タイ）から 2 名受入（2018.1.9-30）

国際総合科学部

1. 国際会議・講演会等の実施

- ・国際講演会「Between ‘Shin Godzilla’ and ‘Your Name’」：小川仁志准教授が講演【高雄師範大学（台湾）】（2017.11.9）

2. 学生海外研修の実施

- ・フィリピン短期語学研修：QQ English（フィリピン）に 101 名派遣（2017.8.27-9.23）
- ・フィリピンインターンシップ：QQ English（フィリピン）5 名派遣（2017.8.20-9.15）
- 3 名派遣（2017.8.20-2018.1.27）
- 1 名派遣（2017.1.14-9.15）
- ・台湾インターンシップ：全台物流（台湾）に 1 名派遣（2017.6.27-30）
- ・美祢市台湾研修（美祢市グローバル人材育成事業）に 8 名派遣（2018.3.13-17）

3. 海外学生受け入れプログラム等の実施

技術経営研究科

1. 国際会議・講演会等の実施

- ・MOT 国際シンポジウム (ISAME2017 in Ube) 【山口大学常盤キャンパス】（2017.7.6-7）
- ・MOT 国際シンポジウム (ISAME2017 in Thailand) 【チェンマイ大学(タイ)】(2017.11.15-17)

2. 学生海外研修の実施

- ・YUMOT 短期海外派遣プログラム：マレーシア工科大学（マレーシア）に 2 名派遣（2017.11.20-23）
- ・グローバル人材育成支援事業に基づく派遣プログラム：
マレーシア工科大学(MJIIT)（マレーシア）に 14 名派遣（2017.8.17-9.7）
ジョグジャカルタ州立大学（インドネシア）に 1 名派遣（2017.8.21-9.12）

3. 海外学生受け入れプログラム等の実施

- ・ Non-Degree Training for Global Mobility Program of MPE/MJIIT : マレーシア日本国際工科院 (MJIIT) から 46 名を受入 (2017.7.3-31)
- ・ MJIIT 共同指導プログラム: マレーシア日本国際工科院 (MJIIT) から 2 名受入 (2018.3.5-5.31)
- ・ グローバル MOT 短期研修: マレーシア日本国際工科院 (MJIIT) から 8 名受入 (2018.3.12-17)

連合獣医学研究科

1. 国際会議・講演会等の実施

- ・ 平成 29 年度 UYV フェローセミナー (UYV=山口大学大学院連合獣医学研究科; 本研究科を修了した帰国留学生を招へいして実施) 【山口大学吉田キャンパス】 (2017.10.17)
- ・ 第 2 回獣医学研究における日本・インドネシアの連携強化のためのシンポジウム【ガジャマダ大学 (インドネシア)】 (2018.2.27-28)

2. 学生海外研修の実施

3. 海外学生受け入れプログラム等の実施

- ・ 獣医学国際セミナー: アイルランガ大学 (インドネシア) 22 名受入 (2017.7.27-28)

4. その他

- ・ 研究科長裁量経費 (大学院生国際交流活性化経費) により, 本研究科学生の国際交流の活性化及び国際学会・会議での研究成果の発表の促進を目的として, 選考の上, 派遣している (H29 年度は 7 名)。
- ・ 研究科長裁量経費 (頭脳循環ネットワーク経費) により, 本研究科と海外の研究機関とのネットワークの構築を目的として, 本研究科担当の若手教員を選考の上, 派遣している (H29 年度は 1 名)。
- ・ 平成 20 年度より毎年「東アジア獣医学研究に係るジョイントシンポジウム」に本研究科として積極的に参加し, 東アジア地域における獣医学関係の大学とのネットワークの強化を図っていることに加え, 北海道大学において平成 25 年度より開催している「Sapporo Summer Seminar of One Health (SaSSOH)」に学生を派遣し, 他大学の大学院生・博士研究員・若手教員と研究交流を行うとともに, それぞれが自身の研究についてポスターあるいは英語による口頭発表を行っている (H29 年度は 6 名)。